

Web配布版

転載する場合は許可が必要です。

郷土教育推進研究報告書

平成20年度

「郷土日野」指導事例

第4集

日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

目 次

目 次

はじめに 「日野の郷土教育の充実に向けて4年目の挑戦」

I. 研究の概要

1. 研究の趣旨
2. 研究の目的
3. 継続研究の課題
4. 研究の柱
5. 研究の組織
6. 研究の経過
7. 開発・収集郷土教材類別

II. 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習活動実践
 - (1) 豊田用水の周りの土地の使われ方
 - (2) 日野市のごみ改革
 - (3) 食材と地域
 - (4) ペリー来航と日野の人々
2. 新開発郷土教材資料
 - (1) 地区の特色をいかしたまちづくり
 - (2) 鎌倉幕府と真慈悲寺
 - (3) 満州(まんしゅう)に移住した日野の若い人たち
 - (4) 中学校社会科副読本
『のびゆく日野』地形図の活用
 - (5) 小学校社会科副読本
『わたしたちの日野』導入時の工夫～既習事項ふるさとクイズ(初級)の活用
3. 地域を知る指導者の育成 ～フィールドワークの実践～
4. 郷土教育環境の整備の啓発
～校内環境整備事例「郷土資料コーナー」～
 - ①メモリアルコーナー
 - ②図書室郷土資料コーナー
 - ③歴年の航空写真
 - ④資料室
 - ⑤郷土資料の活用のためのOJT
 - ⑥校内の郷土資料一覧表の作成
5. 郷土資料の情報提供の推進
 - (1) 『事例集』のPDF化
 - (2) 郷土教材画像資料の電子データ化
6. 郷土教育推進視点の拡大
 - (1) どのような視点が考えられるか?
 - (2) 具体例
 - ①ふるさと教材の英語バージョン「勝五郎生まれ変わり物語」(日英対応版)
 - ②校長講話「日野の方言」
 - ③ふるさと検定・クイズ化「ふるさと検定クイズ(中級～3・4年)」

III. 研究のまとめ

* 資 料

- (1) 「勝五郎 生まれ変わり物語」
- (2) 「勝五郎 生まれ変わり物語」(要約英語版)

* 郷土教育推進研究委員・郷土教育推進研究協力者

はじめに

「日野の郷土教育の充実に向けて4年目の挑戦」

日野市立教育センター
所長 篠原 昭 雄

新学習指導要領「総則」の「伝統と文化を尊重」とそれを育んできた郷土を愛する文言を引用するまでもなく、新年度から実施に移される日野市学校基本構想にも「郷土日野の自然環境や歴史・文化・産業等を生かした」教育の推進が求められています。それは具体的には、学校教育において児童・生徒が“郷土日野”の自然や風土、文化や歴史を知り、それに親しみをもち、郷土の特色や“かけがえのなさ”を理解することによって、郷土に対する誇りと愛着を育てることを意味しています。

ことに近年、日野市では、郷土の自然環境の保全や文化財・史跡の開発が進み、それらに関する市民の関心も高まっています。それに伴い、“ひのっ子”“日野人”の学習と意識の啓発が期待されています。

このようなことから、教育センターのふるさと教育係では、学校における「郷土日野」教育の充実を図るため、開設当初から郷土教育推進研究委員会を組織して調査・研究を行ってきました。その成果は年度ごとの『教育センター紀要』に掲載されていますが、実際の授業に役立つものとして『「郷土日野」指導事例集』を毎年刊行し、その活用・普及につとめてきました。

本年度も、更に調査・研究の充実を図るとともに、その活用・普及を推進しています。具体的には、(1)日野人が日本の国のために尽力した資料の開発、(2)史跡調査の進んでいる真慈悲寺を教材とした授業の開発とその資料化、(3)これまで社会科や総合学習での活用に重点化してきたものを、それだけでなく他の教科や領域にも視点を広げて活用できる教材の開発などと、これまで一貫して進めてきた(4)地域の教育資源活用の観点に立つ郷土資料館、図書館などの学校教育での活用やその普及などです。特に今年は、事例集刊行とともに、それらをPDF化して学校へ提供できるシステムを工夫しています。

研究にあたっては、この研究委員会発足当初から小杉・秋山両校長先生にご尽力いただき、教科担当の先生や市の学芸員、図書館司書など社会教育関係の委員が、学識経験の豊かな會田・吉野先生の協力を得て、何回も研究会を開いて検討を重ねてきました。中身の濃い教材開発や授業に活きる教材・指導法の研究は、これらの方々と教育センター所員の情熱の現れと思います。

本事例集は、第4集として、前記研究委員会の先生方が、それぞれ郷土教材の開発とそれを用いた授業実践を行い、それをもとに、委員会で検討し合って学校の授業で活用できるようにまとめたものです。是非とも各学校・教科等で活用していただきたくお願いいたします。

最後になりましたが、本研究を支えて下さった研究委員の先生方、日野市教育委員会、学校教育関係及び関係諸機関の方々に心からお礼申し上げます。

I. 研究の概要

1. 研究の趣旨

教育基本法には

「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。」（第1章「教育の目的及び理念」教育の目標5）と規定されている。

この教育基本法を受け、日野市教育委員会の教育目標の基本方針は次のように定めている。

「【国際社会に生きる日本人の育成と地域に根ざした教育の推進】国際化が進む今日、広く国際社会に目を向け、国際平和に貢献できる人間の育成とその土台となる教育が求められている。そのために、日本人としての自覚を深め、国や地域に対する誇りと愛着を育むとともに、多様な文化に対する理解を図り国際理解教育を推進する。」

関連する主な推進施策は次の2点である。

「日本の文化や伝統を大切にした教育を推進する。」

「地域社会との交流や地域の自然や文化等を生かせるよう授業を工夫、改善する。」

この施策の平成20年度の具体的な事業としては、教育センターの調査研究事業

「日野の郷土教育推進研究・普及」の推進である。

教育センターでは、平成17・18・19年度の3年間、各小・中学校や関係諸機関に協力を求めて郷土教育推進研究委員会を設置し、郷土教育推進研究を進めてきた。本年度も引き続いて市内小・中学校、関係機関と連携して郷土教育推進研究委員会を組織し、「日野の郷土教育推進研究・普及」を進めることとした。

2. 研究の目的

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「ひのっ子」を育成するために学校における日野の郷土教育のあり方を研究する。

この研究に基づいた各学校の様々な教育活動の実践によって、次のような児童・生徒の育成を目指す。

- 郷土の自然・歴史・文化を理解する児童・生徒
- 郷土の特色やよさを発信できる児童・生徒
- 郷土の一員として自覚と誇りをもち人々と協力する児童・生徒
- 郷土の未来を思い描き実践する児童・生徒

すべての
「ひのっ子」

「ふるさと日野」を愛してほしい！
「ふるさと日野」を誇りに思ってもらいたい！
そして、大人になっても
「ふるさと日野」が心の中にあってほしい！

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに・・・
(教育基本法)

「郷土日野」を愛し、誇りをもつ「ひのっ子」の育成

いろいろな場面で
いろいろな方法で
いろいろな手段で

社会科・総合的な学習の時間をはじめ
国語・理科・道徳・英語・学校行事……

全ての教育活動
の中で

そのために

郷土教育のあり方を研究する

郷土教材の
収集・開発

郷土教材を活用した
学習活動・指導法の工夫

資料・情報
活用法の工夫

3. 継続研究の課題

昨年度までの研究の結果、郷土教育を進める上で、次のような課題と今後の研究の方向性を提示している。

- ① 地域を知る指導者の育成
郷土教育推進が、「地域の中の学校」の指導者としての資質向上を図る重要な柱の一つである。
- ② 郷土資料コーナーなどの郷土教育に関わる校内環境整備の啓発
校内で保管している郷土資料を「いつでも」、「誰でも」すぐに利用できる「郷土資料コーナー」などの環境整備を行うことが郷土教育推進の第一歩となる。
- ③ 郷土教材の電子データ化
郷土教育が学校教育に根づくには、ICT教育と関連づけた「郷土教材の提供のあり方と活用法」の研究が必要である。

4. 研究の柱

本年度の研究は「日野」の郷土教材の収集・開発をはじめ、昨年度までの課題となっている事柄について研究を進めることにした。

- ①郷土教材を活用した学習活動を実践する。
- ②郷土教材を新しく開発し資料としてまとめる。
- ③地域を知り、理解する指導者の育成活動を行う。
- ④「郷土資料コーナー」の実践例を紹介し、校内環境整備のあり方を啓発する。
- ⑤郷土教材を電子データ化し郷土教育の普及を図る。
- ⑥郷土教育推進のための多様な視点の拡大を図る。

5. 研究の組織

小・中学校、「資料館」・「歴史館」・「図書館」・「公民館」などの関係者、学識経験者、教育委員会指導主事、教育センター所員で委員会を組織して調査研究を行う。

6. 研究の経過

期日	委員会の活動	研究(活動)内容	
4/24(木) 10時 一小	正・副委員長、センター打ち合わせ～正・副委員長要請、委員要請、活動大綱検討	・委員会の構成・組織、内容・方向性、日程などの事前打ち合わせ	
5/13(火) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会①	・(委員委嘱)・組織づくり ・本年度の活動内容の検討(研究内容・研究方法・方向性) ・研究日程の検討	
6/10(火) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会②	・郷土教材収集・開発の視点の検討(地域、概要、活用学年、ねらい等) ・フィールドワーク目的地の検討	
7/25(金) 9時 豊田地区	フィールドワーク実地踏査	・本委員会と市教委研修会「教育課題研究～郷土教育」の合同事業の事前調査	
7/31(木) 9時 豊田地区	郷土教育推進研究委員会③	・フィールドワーク(中央図書館・NBC・図書館下湧水・豊田用水・耕地整理の碑・善生寺・七生中自噴水・学習会)	
8/27(水) 14時 一小	郷土教育推進研究委員会④	・郷土教材を活用した学習指導計画案提示・検討 ・「日野の郷土教育推進研究・普及」の視点の洗い出し	
10/2(木) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会⑤	・中間報告会準備(中間報告会項目検討・報告者決め) ・郷土教材資料検討(高幡の町づくり)	授業実践
10/16(木) 14時30分 センター	中間報告会	・中間報告会報告	
10/16(木) 16時30分 センター	郷土教育推進研究委員会⑥	・中間報告会反省 ・「事例集第4集」プロット検討	
11/11(火) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会⑦	・郷土教材を活用した授業実践報告 ・「事例集第4集」掲載項目・執筆分担決めと記載要領 ・「電子データ画像」掲載可否検討 ・「ふるさと検定クイズ」設問検討	
12/5(金) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会⑧	・郷土教材を活用した授業実践報告 ・「事例集第4集」原稿の検討 ・「研究発表会」発表項目・発表者検討	

1 / 16 (金) 15時 センター	郷土教育推進研究委員会⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動実践状況報告 ・「研究発表会」発表原稿・画像検討 ・「事例集」原稿検討 	
1 / 30 (金)	電子データ化作業	<ul style="list-style-type: none"> ・教育センターホームページ「事例集第1・2・3集」PDF掲載 	
2 / 9 (月)	郷土教育推進研究委員会⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・「事例集」原稿最終集約・検討 ・「研究発表会」発表原稿・PP最終集約・検討、リハーサル 	
2 / 12 (木)	「事例集第4集」印刷発注		
2 / 19 (木) センター 14:30	研究発表会	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究発表会」発表 	
2 / 19 (木) センター 16:30	郷土教育推進研究委員会⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・「研究発表会」反省 ・「事例集」残務確認 	
2 / 20 (金) ～	電子データ化作業	<ul style="list-style-type: none"> ・「事例集第4集」PDF化 ・「郷土教材資料画像」電子データ化 	
2 / 27 (金)	「研究紀要」庁内印刷入稿	<ul style="list-style-type: none"> ・「センター研究紀要」入稿 	
3 / 16 (月)	「事例集第4集」納品	<ul style="list-style-type: none"> ・「事例集第4集」発送 	

7. 開発・収集郷土教材類別

() は開発・収集年度 *は開発の候補

河川・湧水・用水

1. 豊田用水 (17)
2. 日野の用水 (18)
3. 黒川清流公園と多摩平の森 (18)

学 校

1. 校章・校歌 (17)
2. 日野の学校の歩み (18)
3. 学校の歴史と地域 (…実践事例：日野日野二小…) (19)
4. 給食と地場産野菜 (20)

暮らし

1. 多摩平団地の今と昔 (18)
2. 身近な地域から見た人口集中 (19)
3. 平山に伝わる昔と今 (19)

交 通

1. 甲州街道と日野宿 (18)
2. 多摩川と交通手段の移り変わり (日野宿・一里塚・日野の渡し・甲武鉄道・日野橋・多摩都市モノレール) (19)

環境保全

1. ごみの収集と活用、ごみ改革 (20)
- *浅川復活

地 形

- *丘陵・台地・低地
(七生丘陵 [多摩丘陵]・万蔵院台地・谷戸田・日野台)

歴 史

1. 新選組 (17)
2. 日野における自由民権運動 (18)
3. 日本の歴史と日野の歴史 (19)
4. 戦時下の日野 (19)
5. 八王子城主北条氏照と三沢十騎衆 (19)
6. ペリー来航と日野 (20)
7. 満州と日野 (20)

産 業

1. 日野煉瓦 (18)
 2. 平山陸稲と林丈太郎 (18)
 3. 工場の進出 (コニカミノルタ・日野自動車) (19)
- *名産 (ブルーベリー・梨・ぶどう・リンゴ・ハウストマト・東光寺大根・養鶏)
- *日野の酪農 (牛乳・アイスクリーム)

遺跡・文化財

1. 百草周辺の文化財 (高幡不動尊金剛寺・百草園・百草八幡宮・多摩動物公園) (18)
2. 多摩八王子競馬場 (18)
3. 中世の武士 (落川遺跡と高幡不動の胎内文書) (18)
4. 坂西横穴墓群 (18)
5. 真慈悲寺 (20)

伝承・芸能

1. 東光寺に伝わる昔話 (19)
 2. 勝五郎生まれ変わり物語 (20)
- *身代わり地藏・駒形神社の駒・年神ごめん・浅川の大鯉・はたかけの松・鼻井の井戸
- *旭が丘たき火祭り

Ⅱ. 研究の内容

1. 郷土教材を活用した学習活動実践

(1) 豊田用水の周りの土地の使われ方

1. 教材化の意図

日野第二小学校の住所は、東豊田であり、となりは豊田である。二小の校歌にも豊田小学校という文言が入っている。しかし、今、学校の周りには田んぼはなく、子供たちは用水の学習をするにあたり、なぜ学区にこんなにもたくさんの用水が流れているのか、また、そもそも用水は何のために作られたものなのか、理解しにくいのではないかと思う。そこで、土地の使われ方が変化してきたことを押さえておきたいと考えた。

2. 指導計画

第四学年 総合的な学習の時間 「豊田用水」

(1) 単元のねらい

用水に親しみ、用水を大切にしようという気持ちをはぐくむ。

(2) 単元の指導計画

	主な学習活動・学習内容（資料）	留意点
課題を発売する	<ul style="list-style-type: none">日野市の用水の広がりを見ながら確認する。(日野市の拡大地図)豊田用水の位置や取水口、湧き水の場所を見ながら確認をする。(学区域の拡大地図)豊田用水の特徴的な箇所をパソコンで見る。(ホームページの資料)豊田用水の川辺堀の内地区を見学する。	<ul style="list-style-type: none">日野市のいろいろなところに用水が流れていることに気づかせる。自分たちの家の周りの用水の様子をイメージさせながら、進める。用水にかかる橋や洗い場など、見学の際に注目してほしい物を取り上げる。
計画する	<ul style="list-style-type: none">用水に関して、調べたいことを大まかに決める。調べたいことが同じ児童同士でグループになる。具体的にどんなことを調べたいか話し合う。調べたいことについて、どんなものを使って調べられそうか考える。	<ul style="list-style-type: none">用水の生き物、植物、歴史、水、広がりについてのグループに分かれ、それぞれが調べたいことを明確にさせる。

<p>追 究 す る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年で 3 つのグループに分かれ、課題別に調べ学習を行う。 生き物 実際に捕ったり、観察したりする。 図鑑などで種類や育つ環境について調べる。見たものをスケッチし、様子を調べる。 植物 水草や用水の周りに生えているものを捕ったり、その種類について調べたりする。 水 水のきれいさなどを調べる方法を調べたり、実際に用水の水の水質を検査したりする。 顕微鏡で見たり、見たものを記録したりする。 歴史 学区域の昔の地図を並べて見比べたり、日野第二小学校の回りの古い写真を見比べたりする。 図書資料を使用する。 講師から用水の歴史を中心とした話を聞く。 広がり 地図で確認したり、流れの方向や分かれ方を見に行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが調べられるような資料を提示する。 ・調べたい内容が載っている資料を見つける作業を共に行う。
<p>伝 え 合 う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをグループごとにまとめる。 ・個人別に新聞のかたちでまとめる。 ・お互いの新聞を読み合い、感想を伝え合う。 自分の調べていない課題を調べた児童の新聞を読み、理解を深める。 ・用水への思いの変化、これから用水とどう関わっていきたいかを意見交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田用水について分かったことから、用水について、気持ちの変化があればその感想を書かせる。

(3) 展開例

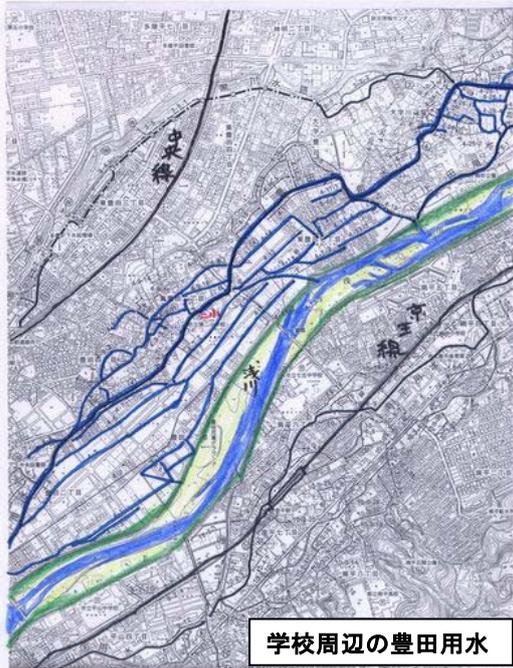
ねらい 豊田用水の歴史を調べるにあたり、その周りの土地の使われ方にも関心を持つ。

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の調べたいことを発表し、調べていくことを確認する。 ・用水見学を行い、耕地整理記念碑を見てくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの知りたいことを全員で確認し、自分と同じ課題の児童を知る。 ・耕地整理記念碑を実際に見ることにより、耕地整理が現実にあったことで、身近な出来事としてとらえられるようにする。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ・用水が作られたころの土地の使われ方を調べる。 ・耕地整理についての資料を読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自分たちで調べられるように古い地図や写真を準備する。日野市全体の地図ではなく、学区域に特定し、児童が調べている豊田用水の周りについて分かるようにする。 ・古い地図の見方について、目印になるようなものを示し、学校がどの辺にあるか分かるように言葉かけをする。中央線や京王線、浅川などを中心に見ていく。地図記号など、全員で確認しながら、地図を見ていく。 ・耕地整理についての資料を用意し、読めない漢字もあるので、読み聞かせる。難しい表現については、簡単な言葉に直しながら説明をしていく。
5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・講師から用水の話を聞く。 ・講師の話をノートにまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師：吉野美智子氏（元日野第二小校長） ・準備：パソコン、プロジェクター
7 8	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田用水のことや、用水管理組合についての資料を読む。 ・自分の課題について調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を準備し、全員で読み進めていく。 ・気づいたことなどがかけるようにワークシートを用意する。 ・児童の用意した資料の中で、難しいところは一緒に読み進めていく。
9 10	<ul style="list-style-type: none"> 分かったことをワークシートにまとめ、発表の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気づいたこと、分かったことをワークシートに記入し、それを元に、グループごとにまとめていくよう助言する。

3. 資料

『用水を総合的な学習に生かす』 (財団法人とうきゅう環境浄化財団) 小坂克信氏

『地形図』 (国土地理院)



学校周辺の豊田用水



洗い場



新校舎 (昭44)



浅川土手方面から (昭44)



まとめの新聞

(2) 日野市のごみ改革

1. 教材化の意図

日野市では、三多摩地区において「不燃ごみとリサイクル率がワースト1」とごみ問題が大きな課題であった。そこで、平成12年、「環境にやさしいまちひの」を目指して、市民と行政が一体となった「ごみ改革」に取り組み始めた。

ごみ改革前（平成11年度）、多摩地区30市町村中の日野市は一人一日当たりのごみの量：可燃ごみ（760.7g）ワースト4、不燃ごみ（193.7g）ワースト1、リサイクル率（13.8%）ワースト1であった。

この結果を受けて、さまざまな取り組みの末、現在（平成18年度）は、可燃ごみ（460.2g）ベスト2、不燃ごみ（99.3g）22位、リサイクル率（36.3%）10位になった。

この日野市のごみ改革を、3、4年生の社会「住みよいくらしをつくる・ごみのしよ理と利用」で取り上げ、日野市がどのようにごみを減らしてきたかについても興味を持たせ、調べるきっかけをつくりたいと考えた。

2. 指導計画

第3、4学年 社会科 小単元名「ごみのしよ理と利用」15時間

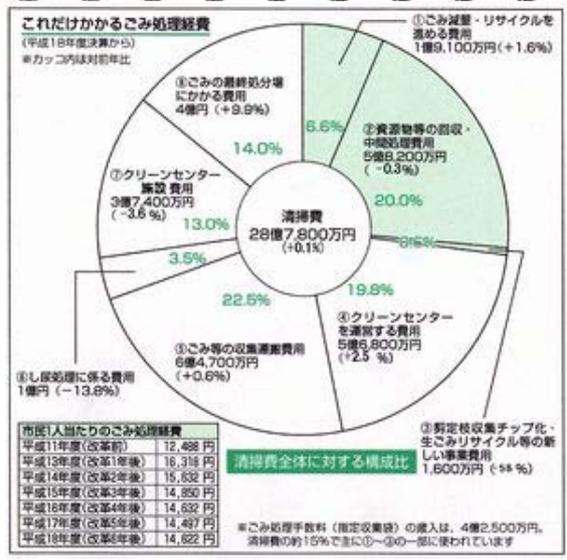
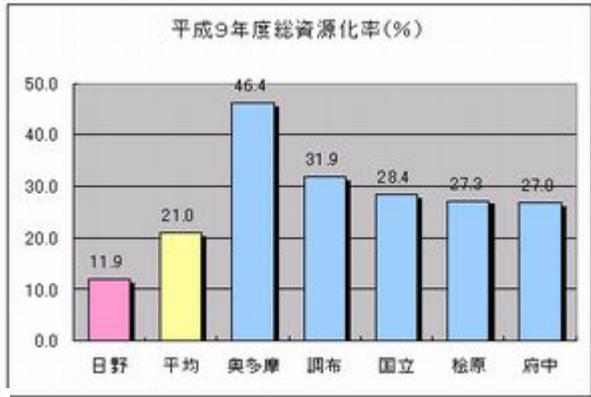
(1) 小単元のねらい

- ・身近な地域で行われているごみの処理と利用について関心を持ち、意欲を持って見学や調査をして調べ、これらの事業が地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることに気づく。
- ・日野市の行っている「ごみ改革」に興味を持ち、どのようにごみを減らしてきたかやごみの歴史を知る。

(2) 小単元の指導計画

	主な学習活動と内容	備考（資料・郷土教材など）	時間
つかむ	<ul style="list-style-type: none"> ○日野市の表やグラフからごみに興味をもち、知っていることを発表する。 ○調べたいことを発表する。 ○学習課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料1など、日野市のホームページ（環境にやさしいまち）から引用した表・グラフを使う。 	2
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみのゆくえを調べ、自分たちにできることを考えよう。（日野市の工夫） </div>		
調べる	<ul style="list-style-type: none"> ○グループに分かれ、ごみのゆくえを予想し、見学について話し合い、見学のめあてを決める。 ・燃えるごみ、燃えないごみ、資源ごみ（ビン・缶など）有害・危険ごみなど ○見学 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループは児童から出たものを優先に。 	1
	<ul style="list-style-type: none"> ○見学や、資料からごみのゆくえをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的なことでとどめず、日野市ではどうしているかまで調べさせる。 ・資料2、3などには、日野市ホームページを参照。 	4
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○日野市・日本のごみの歴史を知る。 ○自分たち一人ひとりができる「ごみ改革」を考え、発表する。 	資料4、5を提示。	

3. 資料1 (参考 日野市ホームページ <http://www.city.hino.lg.jp/>)



多摩地区30市町村中、日野市は？

1人1日当たりのごみ量

可燃ごみ 460.2g	▶ ベスト2	残念! 1位を譲る
不燃ごみ 99.3g	▶ 22位	1ランクダウン
総ごみ量 809.1g	▶ 7位	志年と同じ
リサイクル率 36.3%	▶ 10位	3ランクアップ

数字・順位は東京都市町村自治調査会調べ(平成18年度)

不燃ごみは前年より1.4g増えてしまい、順位も1ランクダウン。可燃ごみや総ごみ(ごみ+資源物)は昨年よりも量が減りましたが、多摩地区全体でごみ減量に努力しているため、順位が落ちませんでした。リサイクル率の3ランクアップは、焼却灰のエコセメント化によるものです。

年度	総ごみ量(トン)	内 訳(トン)					
		収集量					持込量
		可燃	不燃	粗大	有害	資源物	
11 年度	62,808 トン	40,299 トン	11,088 トン	796 トン	51 トン	3,801 トン	6,764 トン
12 年度	59,842 トン	32,895 トン	9,429 トン	1,083 トン	64 トン	8,286 トン	8,085 トン
13 年度	50,941 トン	23,001 トン	5,070 トン	1,000 トン	82 トン	12,605 トン	9,183 トン
14 年度	52,081 トン	23,229 トン	5,335 トン	1,033 トン	87 トン	12,818 トン	9,579 トン
15 年度	52,729 トン	23,217 トン	5,694 トン	1,036 トン	85 トン	12,959 トン	9,738 トン
16 年度	50,680 トン	22,028 トン	5,690 トン	1,012 トン	84 トン	12,563 トン	9,303 トン
17 年度	51,210 トン	22,32 トン	5,804 トン	1,169 トン	86 トン	12,653 トン	9,171 トン
18 年度	51,272 トン	22,31 トン	5,956 トン	1,182 トン	83 トン	12,576 トン	9,163 トン

三多摩地区 30 市町村の中の日野市			
	可燃ごみ	不燃ごみ	リサイクル率
平成 11 年度 (ごみ改革直前)	ワースト 4 (760.7 グラム/人・日)	ワースト 1 (193.7 グラム/人・日)	ワースト 1 (13.8%)
平成 13 年度 (ごみ改革直後)	ベスト 2 (496.1 グラム/人・日)	14 位 (92.8 グラム/人・日)	7 位 (29.6%)
平成 14 年度	ベスト 1 (496.6 グラム/人・日)	18 位 (95.7 グラム/人・日)	10 位 (30.0%)
平成 15 年度	ベスト 1 (487.9 グラム/人・日)	18 位 (99.2 グラム/人・日)	10 位 (30.0%)
※(財)東京市町村自治調査会資料「多摩地域ごみ実態調査」より			

資料 2 ごみ改革について (参考 日野市ホームページ <http://www.city.hino.lg.jp/>)

平成 12 年 10 月に行った日野市の「ごみ改革」は、1.ダストボックスを廃止し、原則戸別収集方式に変更 2.有料指定袋制によりごみを有料化したことにより、ごみ量を半減させた。4 年経った今も改革直後のごみ量を維持し、全国から注目されている。

日野市では、三多摩地区において「不燃ごみとリサイクル率がワースト 1」とごみ問題が大きな課題だった。平成 12 年、「環境にやさしいまちひの」を目指して、市民と行政が一体となった「ごみ改革」に取り組んだ。

ごみは一人一人が出すもの・ごみ減量の主役は市民であることから、市民との合意を最重要とし、600 回以上の説明会を実施した。実施後には、ごみ収集量(資源物を除いた可燃ごみ+不燃ごみ収集量)は 45%減、資源回収量は 3.3 倍、ごみ収集量+資源物回収量は 25%減を達成した。※ごみ改革を行ったのが平成 12 年 10 月のため、前後比較は 11 年度と 13 年度で行っている。

ごみを有料化すると、直後は減少するが再びもとの推移に戻ってしまう(リバウンド)ことが、よく言われていた。しかし、日野市ではこの改革直後のごみ量を引き続き保っている。これは、市民の人々がごみ行政にご理解いただき、日々減量の努力をしてくださっている成果である。

最終処分場への配分搬入量の超過（→搬入停止、追徴金発生の危惧）

日野市のごみは、清掃工場で中間処理（焼却、破碎）した後、東京都日の出町にある二ツ塚最終処分場に埋め立てをしている。この処分場は、日野市を含めた多摩地区の25市1町で負担金を出し合い運営している、東京都三多摩廃棄物広域処分組合が所有しているもの。平成25年には満杯になってしまふこの処分場では、各市町村ごとに配分量（埋め立てできる量）が厳しく決められている。

日野市では、ごみの増加に伴って最終処分量も増加し、平成10年度には、最終処分場の配分量を上回り、現状のままでは、数年後に億単位の追徴金を支払わなければならない危惧があった。

収集方式の見直し・・・ダストボックス収集方式から原則戸別収集方式へ

昭和44年に導入したダストボックス方式は、「24時間いつでも何でも出せる」市民にとっては便利な方法だった。一方、分別・資源化に不適當、設置場所周辺的生活環境が悪化、交通の支障になるなどの問題点があった。

戸別収集方式に変更後は、敷地内に出すことで、排出者が収集されるまで管理するようになった。ダストボックスと違って目につくので、分別も徹底されるようになった。とくに、資源物を戸別収集することにより、重い新聞などを拠点まで運ばなくてもよくなり、出しやすくなった。

家庭系ごみ袋

ミニ袋（5リットル相当）	1セット（10枚）	100円
小袋（10リットル相当）	1セット（10枚）	200円
中袋（20リットル相当）	1セット（10枚）	400円
大袋（40リットル相当）	1セット（10枚）	800円

資料3 日野市分別収集計画（第5期）概要（参考文献 日野市分別収集計画第5期策定）

平成19年6月日野市環境共生部ごみゼロ推進課 平成20年4月 三年ごとに改定
策定の意義 環境問題の解決には、現在のライフスタイルを改め、循環型社会への移行が不可欠であり、未来に生きる子どもたちのためにも、多少の不便を受け入れることで一定の道筋をつけるべきである。

新たな最終処分場の確保は非常に困難な状況となっており、最終処分場の削減を図るためにも4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）を推進する必要がある。

容器包装に係る 分別収集及び再商品化の促進等に関する法律に基づいて一般廃棄物の多くを占める容器包装廃棄物を分別収集し、最終処分量の削減を図る目的で、市民・事業者・行政それぞれの役割を明確にし、すべての関係者が一体となって取り組むべき方針を示したものである。容器包装廃棄物の4Rを推進するとともに廃棄物の減量や最終処分場の延命化、資源の有効利用が図られ、循環型社会の形成が図られるものである。

基本的方向 日野市環境基本計画、日野市ごみゼロプランに沿ってごみ減量を推進する。市民・事業者・行政それぞれの役割を果たし、且つ連携した取り組みを進める。

リユース、リデュース、リユース、リサイクルの順で優先順位をつけ、ステップアップを目指す。

- リフューズ（ごみになるものを持ち込まない）
- リデュース（家庭内で出るごみを減らす）
- リユース（そのまま使えるものは何度でも使う）
- リサイクル（いったん素材に戻し、資源として使う）

資料4 日野市ごみ収集の変遷

—ごみ0社会を目指そう—

参考文献 日野市クリーンセンター

年号 年度	ごみ処理と収集の方法	備考 (○は変化のあった年)
明治 33 1900		汚物掃除法制定
昭和 25 1950		肥料取締法制定
昭和 28 1953	住宅密集地域で収集開始 申し込み制、オート三輪 1 台リヤカー 2 台、手引き荷車 2 台、収集戸数 2215 戸	○
昭和 29 1954	一般家庭月額 20 円の徴収	
昭和 32 1957	収集車リヤカーからオート三輪に変更	○
昭和 33 1958	一般家庭月額 20 円の徴収	日野市清掃条例制定
昭和 34 1959	ごみの焼却開始	○
昭和 39 1964	可燃ごみポリバケツ、不燃ごみコンクリート容器開始	
昭和 41 1966	一般家庭収集手数料無料、ただし 1 日平均 5kg 以上の家庭は 1 円の手数料を徴収、焼却炉完成、可燃ごみ全市ポリバケツ採用	○
昭和 45 1970	不燃ごみ容器ダストボックス使用開始	○
昭和 46 1971	一般家庭 1kg につき 4 円の手数料徴収 可燃ごみ容器ダストボックス使用開始	○
昭和 47 1972		日野市廃棄物の処理及び清掃に関する条例制定
昭和 49 1974		都市町村三多摩清掃問題研究会設立
昭和 55 1980	粗大ごみ（併用）処理施設	羽村新処分場完成投棄開始
昭和 57 1982	粗大ごみ置き場全廃し、個別収集に切り替えダストボックス全廃計画発表	
昭和 62 1987	ごみ焼却炉完成（建設 3 年目）、クレーンパッカー車導入	
平成 3 1991	不燃ごみ収集週 2 回実施	
平成 5 1993	小中学校を拠点に空き缶回収を始める 資源分別回収モデル事業開始	
平成 6 1994	ごみ収集週休 2 日制導入	

平成 7 1995			日野市環境基本条例制定
平成 8 1996	粗大ごみの処理手数料品目制料金制導入、処理券方式		
平成 10 1998	日野市ブランドのトイレットペーパー「帰ってきたぞう」誕生。総ごみ量多摩ワースト 4、可燃ごみワースト 6、不燃ごみワースト 1、資源化率ワースト 1	○	ごみ改革に取り組む。環境にやさしいまち「ひの」を目指す
平成 11 1999			日野市環境基本計画日野市環境マネジメントシステム
平成 12 2000	<ごみ改革> ダストボックス 7200 個を使用したステーション方式から、可燃・不燃ごみ 10 月から個別収集方式でスタート。ISO14001d 認証取得	○	定例市議会でごみの有料化可決
平成 16 2004	日野市立教育センター事業において、「ひのっ子エコアクションプログラム」作成、報告		
平成 17 2005			ごみ量が増加 不燃ごみに資源ごみ混入
平成 18 2006	ひのっ子エコアクション、市内の全小中学校で取り組む		
平成 19 2007	レジ袋の有料化実験、マイバック持参		日野市分別収集計画（第 5 期）策定
平成 20 2008	分別収集計画の始期（4 月）		

資料5 ごみの歴史

1、先史・狩猟時代から大正時代まで

(1) 先史時代・狩猟時代 —ごみの歴史は人類の誕生とともに始まる—

人類が生きていくために必要な食料を採り、その残りを滓としてごみを発生させていた。

(2) 古墳時代・奈良時代 —自然の浄化力から遷都で解決を考える—

—すでに産業廃棄物も—

- ①し尿処理は水路を利用し、自然の浄化力にたよった。ごみは、土地に余裕があったため住み分けが可能であった。
- ②平城京に遷都したのは、それまでの藤原京の都においてし尿、ごみ問題を解決することでもあったともいわれている。平城京以前の藤原京の反対側には大きな便所があり、その悪臭が京の内外にたちこめ、取り締まり詔がでたが、対策がうまくいかず、引越しをしたと言われている。
- ③平城京の側溝は水路としても利用されたが、多くは貴族の邸内に引き込まれ、排泄物を再び外の溝に流すようになった。
- ④都の人口は10万人前後（推定）。銅銭の工房（富本銭）などもすでにできていて、この頃には産業廃棄物も発生していた。処理については、谷の北側にあつて、南は清浄になっていた。
- ⑤土地にゆとりがあったので、住み分けが可能であったものの、都市の環境問題はすでに始まっていた。

(3) 江戸時代（江戸の町） —ごみに関する取り扱いや仕組みが明らかになる—

- ①塵芥改役（ちりあくたあらためやく）というごみ専用の役人がおかれる。「会所地」といわれる空き地を町ごとに設置し、ごみ廃棄場所として使用した。（悪臭、蚊、蠅で住民が悩まされる。）
- ②幕府公認の請け負業者が、幕府指定の埋立地に運搬した。
- ③リサイクル（壊れた道具は修理、着物・傘のつぎはぎ、肥料芥・燃料芥は農家・鍛冶屋・風呂屋等に売却）
- ④ごみのリサイクルで野菜の早だし栽培を行った。砂村（江東区）の松本久四郎が早出し栽培の元祖を言われている。市中から出る台所くずやごみを、稲わらや落ち葉などと積んで、発行熱で地温を高め、さらに炭火を起し油障子で覆って温度を上げてきた。明治以降も続き、博覧会に入賞（促成栽培）
- ⑤ごみとりや、肥えくみや紙くず買い、灰買いや、鋳掛け屋、そろばん屋、研ぎや、ろうそくの流れ買い、傘の古骨買い等があった。紙類などの燃えるごみはそれぞれの家庭で燃やして処理することもあった。

(4) 明治時代 —汚物掃除方制定、東京市直営の清掃事業—

①明治33年（1900）汚物掃除制定

それまでは、請負業者中心の対応であった。

②明治44年（1911）東京市直営の清掃事業

(5) 大正時代 —大町桂月がみた日野の用水— より抜粋

日野市は、道の両側に人家が並び、飲用に供する水 flowing。

その溝を見るに、水は清けれど、芥たまり、塵たまり、草鞋までたまる。

家々おのれの前だけ清めて、穢れものを下の方に押しやる。それが流れきらずして、すぐ下の方に留まる。

『公共心なきも亦甚だしきかな。世にこの類の流れ多けれども、ここばかり穢き所は他になし』

と裸男気の毒に思い、歩きながら一穢物をしゃくひ上げて道に投げ出す。

(中略)

町の人々、あきれたる顔付をして傍観す。余計なる世話かも知らねど、裸男一たび日野を過ぎて、日野の用水為に清くなりき。

4、児童の感想

こんなに日野市はごみが多くてすごく地球に悪いと思いました。わたしも気をつけようと思いました。

• 昔の日野市はすごくゴミが多かったからくさそう。

• 昔は今とちがって、ゴミの集める所にネットかなにかからカラスが来そう。

• 可燃ゴミは昔^(昔)日野市はワースト4だ。たけど13年の可燃ゴミの日野市は**ベスト1**にな、たからすごかったと思いました!

• どうして11年はゴミがい、12年あ、たのに13年にな、たら少なくな、たのか?

(3) 食材と地域

1. 教材化の意図並びに教材の概要

日野六小の学区域では農地が少ないため、児童は、農地にあまり関わりが無く野菜を育てる経験も乏しい。日常の食事の様子や1学期に行った「食生活アンケート」の結果から、野菜が苦手な児童が多いことも分かった。本校では校内研究で「食育」を行っているので、郷土教育と関連付けられないかと考え、この単元を設定した。

栄養士の話によると、日野六小の学校給食で扱っている野菜の「約1割」が地場産の野菜であるとのことだった。これは、他市の学校と比べても、高い割合を示すようである。なぜ地場産野菜を使うのか。それには、次の理由が挙げられる。新鮮であること。採りたてのため、栄養価が高いこと。味がいいこと。生産者と消費者の顔が互いに分かり、安心・安全であること等である。

学校給食で地場産野菜を扱うようになったのは25年程前だという。生産者の方にも話をうかがう機会をもうけ、農家の方の苦労や野菜作りの工夫を知ること、感謝する心や苦手な食べ物にもチャレンジしようとする心を育てたいと考えた。

子どもたちが、栄養士の話の聞いたり、自分で調べたりする活動を通して、苦手な野菜をすすんで食べ、日野の農業を身近に感じられるようになればよい。自分たちが住む地域に関心を持ち、そこでできたものを大切にすることから、郷土を愛する心が生まれ、地域社会の一員として生産者を守ることにもつなげると考えられる。

2. 指導計画

【扱う単元】第3学年 総合的な学習の時間 「食材と地域」

【関連単元】第3学年 社会科 「市の人々の仕事」

第3学年 理科 「植物の育ち方」(オクラ)

(1)単元のねらい

- 日野の農業や消費生活の様子、人々の健康な生活について理解し、地域社会の一員としての自覚をもつ。
- 日野の自然・社会条件を生かし、農家の方が生産に関する仕事をしていて、わたしたちの生活を支えていることが分かる。
- 日野の生産活動について、話を聞いたり、調べたり、表現したりすることを通して、仕事の特色や他地域との関わり、働く人々の工夫を考えることができる。
- 日野への愛着をもち、食べ物に対して、感謝して食べようとする意識をもつ。

単元の評価規準

- ・地域の人々の生産や販売の様子に関心を持ち、それを意欲的に調べ、考えながら追求している。
- ・ 地域の生産や販売の仕事の理解に基づいて、地域の人々の仕事について関心を深める。
(関心・意欲・態度)
- ・ 地域の人々の生産や販売の様子から学習の問題を見出して追及・解決し、地域の生産や販売に見られる仕事の特色やそれらの仕事と自分たちの生活や国内の他地域などとの関連について考え、適切に判断する。
(思考・判断)
- ・ 地域の人々の生産や販売の様子を的確に見学したり調査したりするとともに、調べた過程や結果を工夫して表現する。(技能・表現)
- ・ 地域の生産や販売の仕事に携わっている人々の工夫を理解している。(知識・理解)

(2)単元の指導計画 (全13時間)

	主な学習活動	○支援 ◇評価
気づく	<p>1. 日野の農家について知る。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野のいいところ探しをする。 〈農家の仕事について〉 ・農家の仕事を予想する。 ・質問したい事柄を考えておく。 ・日野の農家の方にお話をうかがう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日野について知っていることを出し合い、日野のいいところを見つける。 ○農家の方からお話をうかがい、野菜を育てるときの苦労や工夫を学び、地場産野菜に対する関心を深める。 ◇日野の農業に関心をもてたか。 ◇気づいたことや分かったことをノートにメモすることができたか。
追究する	<p>2. 地場産野菜について知る。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オクラをはじめ地場産野菜について、栄養士の方にお話をうかがう。(本時) ・給食の献立や給食室からのお便りを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○栄養士のお話から、オクラをはじめとする野菜の栄養や調理方法を学び、野菜に対する関心を深める。 ○日野で育てられている野菜についても触れてもらうようにする。 ◇野菜に関心をもつことができたか。 ◇毎日の食事にはたくさんの人の手がかけられていることを知り、感謝の気持ちをもつことができたか。
	<p>3. 日野の食について知る。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日野の昔の食事について ・食文化・言い伝えについて <p>4. 日野について調べる。(2時間) 調べたことをクイズにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○日野の昔の食事と今の食事を比べて、考えを発表し合う。 ◇日野の食について関心をもつことができたか。 ○意欲的に調べられるように、調べ方を助言する。(インターネット、図書資料、副読本) ◇すすんで調べ、分かりやすく工夫してクイズにまとめることができたか。
深める	<p>5. 日野クイズを発表する。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して発表する。 ・感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表の仕方を工夫するよう助言する。 ◇限られた時間の中で、分かりやすく発表をすることができたか。 ◇友達の発表を、しっかりと聞くことができたか。
	<p>6. オクラの調理をする。(3時間)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 調理実習の計画を立てる。 ② 調理実習をする。 ③ 感想をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が役割をもち、作業に参加することができるような計画をたてる。 ○安全・清潔に配慮した実習ができるようにする。 ◇友だちと協力して、片付けまできちんとできたか。

まとめる	<p>7. 学習を振り返り、日野の農業について調べたことや分かったことを新聞にまとめる。 (2時間)</p>	<p>○新聞に自分の考えや感想を入れるよう助言する。</p> <p>○新聞の特徴を捉え、新聞作りの工夫の仕方を考えさせる。</p> <p>◇分かりやすく新聞にまとめ、自分なりの思いを表現することができたか。</p>
------	--	---

3. 本時の指導

(1)本時のねらい

毎日の食事にはたくさんの人の手がかけられていることを知り、食べ物に対して感謝して食べようとする意識をもつことができる。

(2)本時の展開 (3 / 13時)

	学習活動	○支援 ◇評価
導入 〔7分〕	<p>1. クイズに答えて、食べ物や地域の人々の生産や販売の様子について関心をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○の秋（「実りの秋」・「収穫の秋」） ・11月23日は何の日（「勤労感謝の日」） 	<p>○簡単なクイズをして、食べ物や地域の生産や販売の様子についての興味を引く。</p> <p>◇すすんでクイズに答えることができたか。</p>
展開 〔30分〕	<p>2. 栄養士の方にお話をうかがい、日野の地場産野菜について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>地場産野菜は、なぜいいのだろう。</p> </div>	<p>○11月は、「日野野菜給食月間」であることに触れる。</p> <p>◇地場産野菜について関心をもち、すすんでメモしたり質問したりすることができたか。</p>
まとめ 〔8分〕	<p>3. 授業を振り返り、感想や気付いたことをノートに書く。</p>	<p>◇毎日の食事にはたくさんの人の手がかけられていることを知り、食べ物に対して感謝して食べようとする意識をもつことができたか。</p>

<資料1>

～給食室のお便りから～

【三里四方の野菜について】

昔から「三里四方の野菜を食べると健康に良い」と言われています。三里（12km）四方以内で生産された野菜なら鮮度も良く、体の調子を整えるために必要なビタミンやミネラルもたくさん含んでいるからです。堀之内地区の畑から届けられる地元野菜や百草地区の鶏卵を使用した日野の学校給食はまさにこの言葉通り。新鮮さはもちろん、生産側と食べる側の顔がお互いに見えるということは、何よりの安心と信頼につながっています。

【11月23日は勤労感謝の日】

わたしたちの毎日の食事には、たくさんの人の手がかけられています。食べ物についてだけ考えてみても、米や野菜を作ったり、牛や豚を育てたり、海で漁をしたりする人がいます。市場や八百屋、肉屋で働く人、食品加工工場で作る人、配送などに携わる人などがいますね。そして、おいしい食事

や給食を作ってくれる人など、たくさんの人の働きがあって成り立っているのです。

また、私たちは動物や植物の「大切な命」をいただいて、自分の命を守っていることを忘れてはいけませんね。感謝の気持ちをもって食べるようにしましょう。

【実りの秋・収穫の秋 日野の畑から野菜や米が届きます！】

日野市では、米や野菜、果物など、たくさんの農産物を生産しています。11月は、実りの秋、収穫の秋となり、「日野野菜給食月間」となっています。新鮮でおいしい農産物が毎日のように給食室に届きます！感謝の気持ちをこめて、「いただきます」「ごちそうさま」を言しましょう。

〈資料2〉

【地産地消の学校給食】

地元で生産された野菜や米、くだもの、たまごなどの農産物を生産者の方に直接学校まで届けていただき、学校給食で使っている。(地産地消)

- ・ **新鮮** (旬の野菜、味が良い、栄養価が高い)
- ・ **安全** (生産者と消費者のお互いの顔が分かる、安心、信頼)
- ・ **農家の生産活力** (生産意欲の向上)
- ・ **緑の大地** (自然豊かな農あるまちづくり)
- ・ **食料の自給率アップ** (現在40%→目標45%)
- ・ **環境** (輸送による大気汚染、地球温暖化)

開始年度

昭和58年度 東光寺小学校、大坂上中学校の2校から利用開始

参加農家と利用校

- ・ 東光寺農家 20農家
利用校・・・東光寺小・仲田小・一小・三小・四小・旭が丘小・大坂上中・一中(8校)
- ・ 平山地区農家 8農家
利用校・・・平山小・滝合小・百草台小・夢が丘小・三沢台小・七生中・三中・四中・三沢中・平山中(10校)
- ・ 堀之内地区農家 10農家
利用校・・・二小・五小・六小・七小・八小・潤徳小・南平小・二中(8校)

〈資料3〉

【日野の昔の食事】

- ・ 交通の手段がなく、ほぼ100%に近い、自給自足の食事。田んぼや畑で野菜やいも、米や麦を作り、川で漁をして、季節の旬を味わう食事。
- ・ 日野は、「東京の米蔵」と言われる程、優秀な米作地帯だったが、白いご飯はめったに食べられなかった。麦と米を半々にしたご飯や麦飯を食べていた。そして、一日のうち、一度はそばやうどんを食べて、なるべく米を食べないようにするのが一般的であったようである。そのため、前の晩から米を水でふやかしたり、芋や大根を小さく切って米に加える「かて」にしたりと、工夫をしていたようである。ひえや、あわは、天候不良で米不足となった時の非常食として蓄えられ、普段食べることはなかった。この頃の日野は、比較的幸せな生活を送っていたと言える。

- ・ 白いご飯は、正月・お盆・お祭り・冠婚葬祭の日（「ハレの日」）ぐらいで、この日はお腹をいっぱい減らしておいて、「白い飯をお腹いっぱい食べる」のが楽しみであったようだ。特別な日に赤飯を作るのも、この「ハレの日」の行事として、今も受け継がれている。普段の日常な日を「ケの日」と言った。
- ・ 日野の郷土食として、「けんちん汁」があげられる。干した川の小魚をダシに使い、畑で作った人参、大根、里芋などを入れて自家製のしょうゆで味付けする。ダシで使った小魚も食べていた。東光寺地区では、古くから大根の栽培が盛んで、東光寺大根の名で親しまれていた。
- ・ 戦後食料不足の時代でも、日野の農村には、米や麦、野菜や芋などの食べ物があつた。都会から近い日野の農村には、都会からたくさんの買出しの人が訪れて、米や野菜を買って帰った。お金が無く、着物などの衣料と食べ物を交換する人も多く、農家が潤う時代となった。この頃から、食事は自分たちの地域のものだけでなく、肉や魚（塩鮭など）を買ってにぎやかなお膳となった。

【昔行事の食文化・言い伝え】

特別な「ハレの日」の食事として、日常の「ケの日」では食べられない食材も手に入れて行事を楽しんだ。

< 11月 >

※ 文化の日 11月3日（日野市の花・菊）

- ・ 赤飯 ・ 煮しめ

※ 七五三 11月15日

- ・ 女の子の七歳・三歳・男の子の五歳の成長を祝い、お参りする。
- ・ 紅白の餅を作り、親戚、知人、近所に配りに歩く。

※ 収穫祭（勤労感謝）

- ・ 新米を神棚に供える。
- ・ 新米のご飯をお腹いっぱい食べられる。
- ・ みそ汁にも普段食べられない高価な豆腐、油揚げが入る。
- ・ 煮しめ

収穫祭は持ち回りで、場所（家）を提供し、御馳走を皆で用意した。

引用・参考文献

「農ある日野の街 日野の大地から『食に目を向けよう』」 現日野第六小学校 栄養士
日野第六小学校給食室からのお便り 現日野第六小学校 栄養士

「食物の歴史」 監修 佐藤和彦 編集 尾崎茂 株式会社ポプラ社 1998年

「食べ物の安全のためにできること」

監修 平宏和 編集 杉浦純子 株式会社ポプラ社 1997年

特定非営利法人 サイバー日野 <http://www.hino-kodomo.net/>

【農家の方にお話を聞いての児童の感想】

- ・ 農家の人の好きな野菜はかぼちゃでした。ぼくも好きな野菜はかぼちゃです。かぼちゃのあまいところがおいしいです。「農家の仕事をしてどうですか？」というしつ問には、「うれしいです。」と答えてくれました。みんなのきゅう食のきゅうりや、にんじんなどをなるべくのうやくを使わないようにしているそうです。それを聞いてとても安心しました。これからも、のこさずに食べたいです。
- ・ ぼくは、さいしょ、畑仕事はかんたんだと思っていました。でも、農家の人から話を聞いて、農家の仕事はたいへんだと思ったということと、仕事がいっぱいあるということを感じました。たとえば、ひりょうをまく仕事、しんせんな野菜を育てる仕事などです。今度からは、もっと、農家の人にかんしゃして、「いただきます」「ごちそうさま」を、言うようにしていきたいです。
- ・ わたしは、農家の人に話を聞いて、農家の仕事は大へんなんだなと思いました。わたしは、きゅう食のときにきれいな食べ物があって食べられないから、食べられるようになりたいです。
- ・ わたしは、農家の人のお話を聞いて、感心しました。とくに心にのこったことがあります。今へんな薬が入っている食べ物などがニュースに出ていて、薬はあまりよくないから、ひりょうなども、かれ葉や土などの自ぜんのものを使っていると聞いて、すごいなあと感じました。作っている人や、運ぶ人、それから命をいただくのだから、やっぱり「いただきます」「ごちそうさま」はとてもだいじだなあと感じました。これからもすききれいな、この思いもわすれずにいたいです。感心しました。
- ・ 農家の人がかんばって作っているのが分かりました。わたしは、とくににんじんがきれいなので、かんばってにんじんを食べられるようにしたいです。キャベツとか、葉っぱを一まい一まい見て、虫をとるのは、すごいと思いました。
- ・ ぼくは、こういうしつ問をしました。「野さいのたねは、プランターにうめても大じょうぶですか。」と聞きました。そしたら「大じょうぶだけどそこが深いプランターじゃないと野さいが小さくなるからそこは、気をつけてください。」と、言ってくれました。ぼくは、それを聞いて、家でも野さいを育てたいなと思いました。

(4) ペリー来航と日野の人々

1. 教材について

ペリー来航(嘉永6年6月3日に浦賀沖に出現)に関する史料は国内各地に残されており、多摩地域にも多数ある。例えば、八王子市の秋山家(蘭方医)には、ペリーの肖像画や国書受け取り時に警護にあっていた千人同心の手紙が残されている。また、御台場を使用する松の切り出し(50ヵ村、延べ7,262人、3,967本の松丸太)に関する文書(鏑水村大塚家)も残されている。さらに、五日市憲法で有名な深沢家や谷保村(現国立市)の本田家に黒船の絵がある。『日野市史』には一般的な記述しかないが、土方家文書として「異国船渡来一件之写」などが残っている。

この文書は、黒船が浦賀に来た際、警備に当たっていた四藩や浦賀奉行などの報告書、御台場の設計見積書などである。当時を知るには一級の資料であるが、出版業界の進展に伴い書き写されたようで、ほぼ同じ文書が『神奈川県史』や『大日本古文書』、『品川町史』などで活字化されている。また、日野宿の助郷総代をしていた柴崎村(現立川市)の名主鈴木平九郎の「公私日記」にも黒船や御台場の築造に関して多く記述されている。これらの史資料を活用することにより、日野市域の人々が国防の一環として築造された御台場への負担を知り、同時に江戸時代から明治時代への大きな時代の動きを身近に捉えることができると考えて教材化した。

2. 指導計画

社会科 第6学年 小単元名「黒船来航」

(1) ねらい

- ・ペリーの来航によって、動揺した国内の様子や日野の村々への負担などを地域の資料を調べることを通して理解し、開国までの経過をとらえることができる。

(2) 指導計画

過程	主な学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
気づく	<ul style="list-style-type: none"> ◆黒船と千石船の絵を手がかりに船の違いに気づく。 ・大砲 ・風に頼らないで動く ◆浦賀に黒船が来航したイラストを見て、気づいたことを発表する。 ・黒船が4艘 ・早馬に乗っている武士 ◆早馬の武士の持っていた文書を読み、気づいたことを発表する。 ・どうなることか心配している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒船と千石船の違いを絵画資料によって具体的にとらえさせ、乗組員や船の大きさなどについても補足説明する。 ・地図帳を使い、浦賀が江戸から見てどのような位置にあるか確認する。 ○イラストを見て、当時の人々の驚きに気づき、黒船に関心をもつ。
1	<ul style="list-style-type: none"> ◆ペリー来航の目的について予想をたて、調べる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ペリー(黒船)は、何のためにやってきたのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ペリー来航の目的について予想することができたか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に開国を要求 ・捕鯨船や中国への貿易船の燃料・食料の補給のための港 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカが開国を要求したのは、太平洋での捕鯨や貿易船の燃料・食料の補給のためであることをおさえる。
調べ	<ul style="list-style-type: none"> ◆御台場のイラストなどをもとに、当時の様子を知る。 ・人工の島 ・大砲を備えている。 ◆御台場を造るのに、幕府が出した命令について予想を立て、話し合う。 ・材料を出す。 ◆日野では、御台場を作るのにどのような負担をしたのか調べる。 ・松の木を切る人足 ・御台場を作る費用 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペリー来航への備えとして御台場が造られたことを気づかせる。 ・日野市内の文書を使うことで、興味・関心を高める。 ・御台場のイラストをもとに、築造にどのようなものが必要か考えさせる。 ・日野にどんな命令が出されたか予想する。 ○地域の資料を使って、予想したことを調べることができたか。 ・負担の大きさについて補足説明する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ◆ペリーの要求に対して、幕府はどうか予想する。 ・会議を何回も開いた。 ◆ペリーの要求に対して、結論の出せない幕府を人々はどう思ったか考える。 ◆日米修好通商条約について調べ、どのようなことが決まったのかまとめる。 ・貿易港を五港にする。 ・不平等な条約 ◆ペリー来航から15年後に江戸幕府は倒れ、武士の時代が終わったことを知り、考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大名や朝廷まで意見を求めるのは異例であることを補足説明する。 ・当時流行った狂歌をもとに考えさせる。 ・不平等な条約は、当時後進国であった中国や日本に対する先進国の政策であることを補足説明する。また、アメリカだけでなく、他の国々とも同様の条約を結んだことを知らせる。 ○ペリー来航をきっかけにして、武士の世の中が終わったことが理解できたか。

3. 本時の指導

(1) ねらい

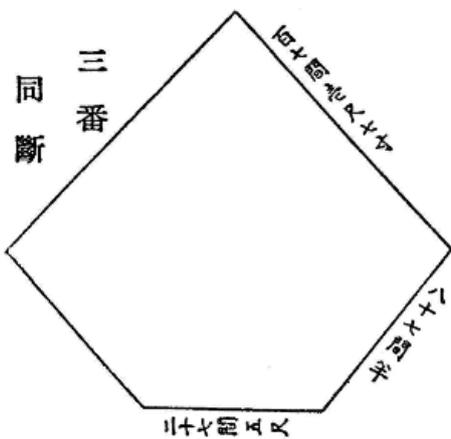
ペリー再来航への備えとして御台場を築造した幕府が、日野市域に課した負担を地域の資料を調べることによって知る。

(2) 展開

学習活動・学習内容	教師の働きかけ(○評価)
1. 御台場の見積書や図を見て、何の見積書か予想する。 2. 御台場のイラストなどをもとに、当時の様子を知る。 ・海の中の島 ・大砲を備えている。	<ul style="list-style-type: none"> ・この見積書や図は市内にも残っている(資料1)ことを知らせ、興味・関心を高める。 ・現在の写真を用意し、どこにあるのか気づかせる。 ・ペリー再来航への江戸城の備えとして御台場が造られたことを知らせる。
3. 御台場を造るのに、幕府が出した命令について資料をもとに予想を立て、話し合う。 ・材料を出す(土、石、松丸太)。	<ul style="list-style-type: none"> ・御台場のイラストや断面図、資材の調達ルート図など(資料2)を手がかりに、築造に関してどのようなものが必要か考えさせる。

<ul style="list-style-type: none"> 働かせる。 お金を出す。 <p>4. 日野市域では、御台場を造るためにどんな負担をしたのか調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 砂利を運ぶための船を貸した(10日間)。 松の木などを運ぶ筏を通すため、多摩川の中の大きな石を取り除いた。 平山村から松の木を切る人足を出した(4日間で144人/戸数120軒)。 御台場を作る費用を寄付した(日野宿 216両、対岸の柴崎村は125両)。 	<ul style="list-style-type: none"> わかりにくい時は『公私日記』(教師用資料)の御台場の工事の様子などを読み聞かせる。 <p>○日野にどんな命令が出されたか予想できたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3で予想したものうち日野市域で考えられることは何か話し合ってから調べる(資料3, 5)。 負担の大きさ(平山村の戸数に対する人足の割合や八王子では松材の運搬中に死亡した人がいることなど)や工事の様子について補足説明する。
<p>5. 幕府の考えを読んで考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 御台場ができて一安心。 幕府の強がりだ 	<p>○「御台場ができて安心だ」という幕府の考え(資料4)に対し、自分なりの考えをもつことができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 御台場が実際に使われなかったことについては、次時で扱う。

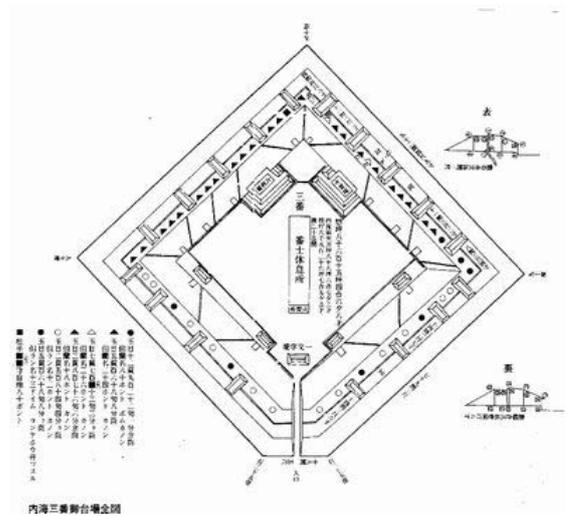
◎ 資料1. 日野に同じような図面が伝えられています。何の図面だと思いますか。



坪 19,351坪 五方同断
 平均満潮面迄 深9尺
 内 15,788坪9合 土砂
 3,149坪1合 三浦土丹岩
 413坪 三浦石

(『品川町史 上巻』品川町役場 1932年から)

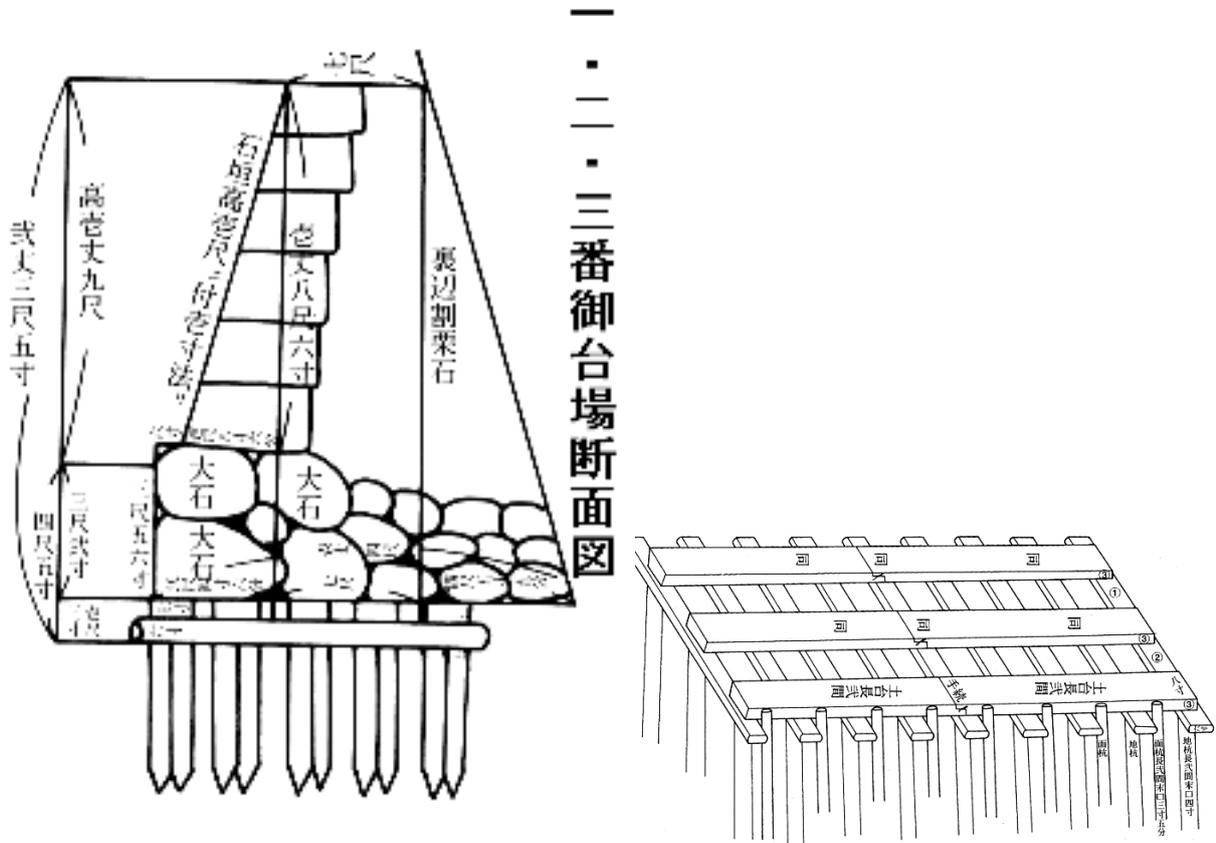
※下の写真を見せ、現在の御台場であることに気づかせ、御台場とは海の中に人工的に造られた島であることを説明する。(第3台場の広さは約3ha)



(『台場－内海御台場の構造と築造－』)

◎ 資料 2. 御台場は海の中に人工的に作られた島です。江戸城や町を守るために、この島に大砲を置き、何かあったら異国船を迎(むか)え撃(う)とうとしました。

(1) 御台場を作るためには、何が必要だったのでしょうか。断面図をもとに考えましょう。



(『台場－内海御台場の構造と築造－』)

(2) 御台場を作るための資材はどこから集められたのでしょうか。



資材の調達ルート (『台場－内海御台場の構造と築造－』)

◎資料 3.

嘉永 6(1853)年の『公私(こうし)日記』を読んで、日野の人々が御台場(おだいば)を作るのに、どんなことをしたのか調べてみましょう。

9月14日

「御台場で使う木材を青梅(おうめ)や羽村(はむら)の御林(おはやし)から切り出し、筏(いかだ)で多摩川を下ることにした。ついでには川の中の大きな石がじゃまなので取りのぞきなさい」と命令されて、みんなで多摩川の中に入って大きな石を運び、とても大変だった。

10月13日

御台場で使う丸太を六郷(ろくごう)から品川に運ぶのに、村にある川船(かわぶね)を全部出すよう命令され、4日間手伝った。しかし、往復(おうふく)も入れて10日間かかり、この間は仕事ができなかった。

10月20日

御台場の工事費用を出すように言われ、16日から3回も相談したが決まらない。下谷保村や四谷村は生活が苦しいのでお金は出せないという。けっきょく柴崎(しばざき)村は125両、日野宿は216両出すことにした。

12月1日

多摩川の下流で取った砂利(じゃり)を運ぶのに川船を出せと言われ、川船を出した。

◎資料 4. 幕府の考え

いざという時のためのお台場もでき、大名たちも家来(けらい)を連れて分担して警備(けいび)しているのだから、安心しなさい。もし黒船が再び来たとしても、さわがないようにしなさい。

「幕府の考え」に対する児童の反応

- ・こういうことを言われると、自分たちを守ってくれるみたいで安心した。
- ・幕府は御台場に自信をもっている。ペリーがもう1回来ても大丈夫だと思う。
- ・安心しなさいと書いてあるけど、アメリカの船を恐れている。やっぱり怖いものは怖い。
- ・当時の日本の技術は、外国よりはるかに劣っているからから安心できない。

◎資料 5. : 平山村からは、御台場で使う松の木を切るのに何人行ったでしょうか？

合計 () 人

当時の平山村は 120 軒(けん)でした。

(前 略)

6 月 20 日

- ・ 12 人 下柚木村
- ・ 4 人 中山村
- ・ 6 人 打越村
- ・ 13 人 散田村
- ・ 6 人 越野村
- ・ 11 人 堀之内村
- ・ 30 人 平山村
- ・ 10 人 本郷村
- ・ 10 人 下櫛田村
- ・ 20 人 下長房村
- ・ 21 人 武州小山村
- ・ 10 人 上柚木村
- ・ 5 人 長沼村
- ・ 10 人 北野村
- ・ 10 人 子安村
- ・ 10 人 小比企村
- ・ 25 人 武州相原村
- (中略)
- 計 472 人

6 月 21 日

- ・ 10 人 宇津貫村
- ・ 10 人 小比企村
- ・ 12 人 下柚木村
- ・ 6 人 越野村
- ・ 6 人 長沼村
- ・ 4 人 中山村
- ・ 6 人 打こし村
- ・ 14 人 館村
- ・ 10 人 子安村
- ・ 6 人 松木村
- ・ 10 人 北野村
- ・ 7 人 別所
- ・ 5 人 八日市村
- ・ 5 人 左入村
- ・ 9 人 下長房村

- ・ 23 人 大和田村
- ・ 30 人 八王子中野村
- ・ 40 人半勤 大沢村
- 計 381 人

6 月 22 日

- ・ 24 人 落合村
- ・ 2 人 宇津木村
- (中略)
- 計 491 人

6 月 23 日

- ・ 41 人 落合村
- ・ 13 人 セキ矢部村
- ・ 20 人 八王子中野村
- ・ 23 人 宇津木村
- ・ 60 人 小山田村
- ・ 90 人 上溝村
- ・ 42 人 村人足
- ・ 30 人 平山村
- ・ 8 人 矢部村
- ・ 30 人 ゆき中野村
- ・ 15 人 檜原村
- ・ 20 人 犬目村
- ・ 18 人 大谷村
- ・ 15 人 中条様
- ・ 30 人 北 中野村
- ・ 20 人 左入村
- ・ 20 人 八日市村
- ・ 17 人 尾崎村
- ・ 24 人 本郷村
- ・ 13 人 岡部様
- ・ 27 人 大和田村
- ・ 90 人 八王子 15 ヲ宿
- 計 686 人

6 月 24 日

- ・ 30 人 北 中野村
- ・ 67 人 落合村
- ・ 98 人 上溝村

- ・ 42 人 村人足
- ・ 40 人 平山村
- ・ 30 人 小山田村
- ・ 16 人 岡部様
- ・ 14 人 中条様
- ・ 19 人 矢部村
- ・ 28 人 下溝村
- ・ 20 人 犬目村
- ・ 41 人 八王子 10 ヲ宿
- ・ 7 人 八日市村
- ・ 44 人 宇津木村
- ・ 19 人 下長房村
- ・ 9 人 尾崎村
- 計 551 人

6 月 25 日

- ・ 18 人 宇津木村
- ・ 80 人 上溝村
- ・ 20 人 北 中野村
- ・ 44 人 平山村
- ・ 50 人 下溝村
- ・ 42 人 村人足
- ・ 15 人 中条様
- ・ 13 人 岡部様
- ・ 29 人 犬目村
- ・ 70 人 小山田村
- ・ 9 人 矢部村
- 計 402 人
- ・ 42 人 村人足
- ・ 11 人 岡部様
- ・ 14 人 中条様
- 合計 7,262 人

(大塚家文書「嘉永 7 年 6 月初切之分 御林御伐出御用人足控帳 鑓水村」から作成)

◎ 教師用資料 1. 御台場

お台場地区の開発は近年著しく進んでいる。臨海新交通「ゆりかもめ」が開通し、観光スポットとしてテレビや雑誌の注目を集めるようになった。それと同時に、かつての景観は忘れ去られてしまったようだ。御台場は江戸時代の終わり、江戸とその周辺の警備のため、現在の東京湾の海上に幕府が作った巨大な構造物である。この工事の直接の契機は、嘉永6(1853)年のペリー来航で、彼が去った7日後の6月19日に幕府は江川太郎左衛門英龍を勘定吟味役にし、同時に御台場築造を命令した。御台場は、当初12基として計画され、2ヵ月後の嘉永6年8月に第1～第3までの台場の工事が始められ、8ヵ月後の嘉永7年4月に完成した。嘉永7年1月からは第4～第7台場の築造が始まり、11月に第5,6台場が完成した。しかし、財政上の理由で、第4台場は7分完成、第7台場は海中の工事が終了したところで中断された。この工事に使われた資材の内、杭や土台に使われた材木は八王子周辺や千葉県柏市、我孫子市付近から集められた。その上に築かれた石垣の石は伊豆半島から運ばれた。埋立用の土は高輪泉岳寺の境内や御殿山を切り崩して川船で運ばれた。

築造当時、外国船来航の脅威を感じていた江戸と近郊の人々にとっては頼もしい存在だったと思われる。しかし、幸いにも御台場は本来の軍事目的には一度も使われないまま明治時代を迎えた。その後、東京湾の警備や開発とともに4基が解体され、現在では第3、第6台場の2基が国指定史跡として保存されている。

◎ 教師用資料 2. 公私(こうし)日記

公私日記は、柴崎村(現立川市)の名主鈴木平九郎が幕末の天保8(1838)年から安政5(1853)年までの約20年間にわたって書き続けた日記で、合計23冊残っている。これには、多摩川の堤防工事や村内の出来事など様々なことが書かれ、外国船の渡来についても記されている。特に、嘉永7(1854)年には、ペリー来航に関する記事が多く、2月23日まで断続的に記されている。また、当時の柴崎村は、日野宿の助郷(宿場の人足や馬の補充のため周辺の農村に課した夫役)をしており、鈴木平九郎はその総代をしていた。また、幕末は近隣の名主同士の交流が多かった。これらから、彼の持っている情報は日野にも伝えられていたと考えられる。ここでは、活用しやすいように一部を現代語訳した。

◎嘉永7年1月21日(陰暦)

八ッ時(午後2時)頃、再び注進船が来た。それによると、異国船は房州洲之崎(千葉県館山市)から浦賀番所を通り猿島(横須賀市)へ一艘行き、その他5,6艘は浦賀(横須賀市)へ着いたという。引き続き数艘が来るという噂もあり、江戸市中は不穏な空気に包まれている。それにつれて米も高値で買入れるようになり、米を売る人もいなくなった。15～17日まではこのような訳で、今にも合戦が始まるような様子だったが、18日より少しずつ落ち着き、19日には噂も静まってきた。といっても、18日には北町奉行が浦賀へ出発した。異国船は7艘、金沢沖の夏島(横須賀市、現在は埋立てられ陸続き)に停泊している。しかし、未だに要望などの申し出は一切なく、他の船が来てから全てを話すようだ。なお、今回の応接場所は鎌倉の寺で、そこへ異国船の主なる者を呼ぶという噂だ。また、江戸市中には、次のような御触書が出たという。「異国船が渡来したことを理由に物価を引き上げてはいけない。武士は金がかかるので、銭相場を引き下げるべきだ。また、異国船は願い事があるて来ている。武士が各地区を警戒しているので、決して騒がないようにせよ(後略)」

◎1月23日

品川の御台場の工事に行った与瀬宿(神奈川県相模原市相模湖町)の者が、帰りがけ下川原(立川市柴崎体育館付近)で病気になり苦しんでいた。介抱したところ少しよくなったので、作日帰宅させた。その時、足銭を恵み日野渡船場まで送るように村番人に申し付けた。1月15日江戸の町には、次のような御触書(おふれがき)が出された。「異国船が来ても船を出して近寄って見物してはならない。もし、異国船が沖合に見えたら、町役人を海岸に見張らせ見物船を厳しく制止させる。それでも、船を出す者がいたら見回りの役人へ早々に報告すること。また、火の元など油断なく見回り、物騒がしいことがないように注意すること。これらのことは、海沿いの町や川船を持っている者にも早々に伝えよ」

◎1月24日

献金の上納および御褒美(御台場造営費など)を頂けるといので、藤助を連れて江戸へ向かう。「ちち清」

(宿屋)に泊まるが、福生や砂川の名主たちも同宿した。台(立川市)の宇右衛門は、19日に東海道の生麦(横浜市鶴見区)より船を出し、猿島にて異国船を見物したところ、7艘もいたと言う。また、バツテイラ船で測量している異人たちを6尺(約18m)の距離から見たなどと、同宿の者が話していた。なお、今回異国船の見物は禁止となった。

◎1月25日

アメリカ国王の誕生日にあたり祝砲を打つので、驚かないようにというお触れがあった。砂川・福生の名主と一緒に大師河原(川崎大師)に参詣する。その後、高輪大木戸から遠眼鏡(とおめがね)で覗いたところ御台場を3ヵ所工事していた。高輪泉岳寺境内と御殿山の2ヵ所から土を掘り起こし、多数の船に積んで2番・3番の御台場に運んでいる。土を運ぶ人足も数多く、すれちがう時はぶつからないようにうまく間を抜けて通っている。海岸通りの御矢来の内には、松材をたくさん積み重ね、工事の用意をしている。御囲場へ運送の鉄砲、長持ちその他の武具の通行は引きも切らない。騎馬や歩行の武士の多くは、陣笠をかぶり太刀を付けている。希に鎧下を着用している人もいる。

品川入口には福井侯の番所や役所の幕が高く張ってある。品川のはずれには土佐侯の御囲幕を高く張り、浜辺の方に大砲を備えている。(中略)大森の仕置場向こうは松平隠岐守の御囲場で民家が続き、往還を越えて浜辺に大砲3門を置いてある。その間に土俵を積んで土手を築き、三方柵を張って所々に武士が隠れるような土手がある。大砲打場に立ち寄ると大砲が3~5門も置いてあり、どの大砲も見張り番が付いている。食糧なども運び込んだりしている。葎(むしろ)や風呂桶も運んでいて、本当に前代未聞の出来事だ。甲冑の武士は見えないが騒がしくて、さながら戦場の様子もこのようではないかと思った。四ッ時頃(午後10時頃)ようやく「ちち清」に帰り着いた。

参考文献

- ・『鈴木平九郎「公私日記」第16冊嘉永六年』立川市教育委員会 1981年
- ・『鈴木平九郎「公私日記」第17冊嘉永七年』立川市教育委員会 1982年
- ・『台場―内海御台場の構造と築造―』東京都港区教育委員会 2000年
- ・『ペリー来航と八王子―鏈水御林よりの御台場御用材伐り出し―』古文書を探る会 1980
- ・佐藤正夫『品川台場史考―幕末から現代まで―』理工学社 1997年

2. 新開発郷土教材資料

(1) 地区の特色をいかした「まちづくり」

1. 教材化の意図

単元「わたしたちの生活と政治」の学習に入る前、児童に「政治」のイメージを聞いた。社会科見学で国会議事堂の見学をしたり、日常生活の中でテレビや新聞から見たり聞いたりしていることもあり、“国会”“議員”“年金”などの言葉がたくさん出てきた。一方では、「自分たちと関係がない」「何をやっているのかわからない」「むずかしい」「楽しくない」「偉い人たちが集まって話している」と、自分たちの生活とはかけ離れた世界であると感じている意見も多く出てきた。

教科書で学習する事例だけでなく、自分の住む日野市において、市民の願いを実現するために政治の働きがあることを調べることは、一市民として政治を身近に感じ、政治に関心をもつよい機会になるのではないだろうか。本校の子どもたちが暮らす街「高幡」、暮らしの中から日常的に見て、感じているであろう「高幡」の街の変化を取り上げ、「高幡地区のまちづくり」を教材化した。

その意図は、次の二つがある。

- ① 高幡不動駅周辺の開発や、万願寺地区の道路工事などは子どもたちの日常生活とも大きく関わることであり、実際に子どもたちがその様子や変化を調べ、見ることができる。

高幡地域の変化

駅前広場の整備、鉄道の踏み切りによって生じる交通渋滞解消、京王線高幡不動駅とモノレール駅とを結ぶ歩行者用道路の敷設、北側の道路整備と住宅環境・公園等公共施設の整備、歩行者の安全を優先する不動尊参道の改修（一方通行の規制、車道と歩道の段差減）

高幡地区のこうした街の様子や変化について、街づくりの目的・方法・施行に至る経緯等を、具体的事例から学ぶことで、政治と自分たちの日常生活との関わりや、高幡の街の変遷・発展を考えさせたい。

- ② 日野市は土地地区画整理事業を基本に街づくりを推進してきている。そして今、将来に及ぶ日野のまちづくりは、「まちづくりの9本の柱」を、まちづくり基本計画の柱として進められている。こうして点からも、地域の“特色を生かしたまちづくり”は、どの学校でも教材化が可能である。

2. 指導計画

- 第6学年 社会科
- 小単元名「わたしたちの願いを実現する政治」 12時間

(1) 小単元のねらい

教科書の事例を取り上げて、その事業が国民生活の安定と向上を図ろうとする地方公共団体や国の政治の働きによるものであることを理解するとともに、自分たちの住む日野市のまちづくりについて調べ、政治の働きから郷土日野の変遷・発展を考え、政治の働きに関心をもつようにする。

(2) 小単元の指導計画

	主な学習活動と内容	備考（資料・郷土教材等）	時間
導入	1、暮らしと政治の結びつきに関心をもつ。 ○公共に関するものや事柄を探し、公共とは何かを考える。 ○公共に関わるものの背景には政治の働きがあることに気づき、暮らしと政治の結びつきに関心をもつ。	・日野市ホームページ ・「ひのまっぷ」 ・公共施設の名称に市立、都立、国立がつくことに着目	1

抜 粋

まえがきより

高幡不動尊を中心とした旧市街地、多摩丘陵の宅地造成による新市街地があり、人口増加の一端をたどっている。

しかしながら、道路、下水道、公園等、公共施設の整備が遅れ、住みよい町としての機能が失われつつある。

そこで、整備方法の一つとして、土地区画整理事業を考え、基礎調査を行うとともに、将来の市街地整備構想を策定したものである。

基本構想より

高幡地区の特性を生かし“歩くことの楽しいまち”と設定する。

- 具体的には
- ・健康で快適な生活が営める環境の良いまち
 - ・郷土の文化財、自然に親しめ、散策する楽しみがあるまち
 - ・便利で安全に楽しくショッピングできるまち
 - ・日常サービス施設まで徒歩で安全に利用できるまち

実現方策の検討より

高幡不動駅周辺の地区は、商業地、住宅地としての環境を高度に維持増進させるため、建築協定と土地区画整理を組み合わせ事業化する。

駅前西の既成市街地は商店街近代化事業により商店の共同ビル化、買い物道路の整備等を行い、商店街のイメージアップを図る。

多摩丘陵の樹林地は都市景観上及び災害防止上保全する必要があるため、緑地保全地区に指定する。

整備時期については、早急に駅周辺の約 40 ha の地区を公共団体と地区各事業により施行することが望まれる。

(7) ひの 昭和57年(1982)12月1日 第572号

下水道のばして守ろうくらしと自然

特集

着々進むまちづくり

めざすは住みよい快適な日野市



▲市内土地区画整理事業中の一画。左側は、日野市立総合体育館の建設現場。右側は、日野市立総合体育館の建設現場。左側は、日野市立総合体育館の建設現場。右側は、日野市立総合体育館の建設現場。

都市整備に効果果す区画整理



この市は、昭和57年12月1日現在、市内土地区画整理事業が、着々進んでいます。この市は、昭和57年12月1日現在、市内土地区画整理事業が、着々進んでいます。

最近の区画整理の動き

深くご理解

市内土地区画整理事業一覧表 (昭和57年12月1日現在)

No.	名称	面積(㎡)	種別	事業開始(昭和)	実行状況(昭和)	総事業費(円)
①	平山台	128	日野市	38年5月15日	48年7月14日完了	1,514,370
②	豊田	133.3	日野市	32年3月13日	48年4月27日完了	616,000
③	神明上	133	日野市	41年10月1日	57年6月20日完了	7,670,000
④	西ヶ谷下	15	日野市	41年10月1日	48年1月10日完了	415,921
⑤	新坂下	77	日野市	計画決定 40年6月7日		
⑥	万福寺1期	127	日野市	57年1月17日	施行中	16,059,100
⑦	万福寺2期	129.5	日野市	計画決定 60年6月1日		
⑧	牧上団地	27.5	組合	39年6月20日	47年1月30日完了	496,052
⑨	平山七生台	51.4	個人	44年8月29日	48年10月8日完了	9,062,805
⑩	日野市平山下跡地	12.6	組合	55年7月25日		1,280,000
⑪	日野市金田	4.2	組合	55年2月1日	施行中	330,000
⑫	美穂(仮称)	約39	日野市		事業調査中	
⑬	豊田南(仮称)	約89	日野市		事業調査中	
⑭	西早山(仮称)	約59	未定		検討中	

<参考資料3> 日野市の開発は区画整理から 一土地区画整理の手引き— 日野市都市計画部区画整理課作成 1969、6月改訂版 抜粋

○区画整理とは

昭和29年につくられた区画整理法に基づいて行われている事業である。この法律には次の2つの目的がある。

- 1、道路公園等の公共施設の整備改善を行う。
- 2、宅地の利用増進を図る。

○事業推進の方法は

一定範囲の土地を区画整理の施行区域と定める、まず、道路、公園、排水設備等を新しく作ったり、広げたりし、不正形の土地を整形にし、袋地をなくし、各宅地を全部道路に面するようにする。要は、無秩序に膨張しつつある乱雑な街を整然とした街に変えることにある。

<参考資料4> 高幡不動駅周辺のまちづくり年表

日野市役所 都市計画課 原島氏提供

年 代	事 業 の 内 容
昭和42年12月	都営新井団地建設
昭和43年頃	百草台、高幡台団地建設
昭和61年～平成15年1月	高幡区画整理事業
平成2年6月	ふれあい橋完成（万願寺区画整理事業）
平成4年～平成7年度	向島用水改修、小路の整備
平成12年1月	多摩都市モノレール運行開始
平成12年	都道地下道（京王線との立体交差）の完成
平成14年度～16年4月	高幡不動参道改修 一方通行、車止めの設置（お祭りや歩行者の安全） バリアフリー（歩道の段差を5cmに）
平成15年	トーフマンションの建設 まちづくり協議会を立ち上げる （自治会関係者、商店会、地主、マンション管理組合）
平成16年～平成19年4月 平成19年3月	高幡不動駅改修 京王線高幡不動駅と多摩都市モノレール高幡不動駅をつなぐ 歩行者用通路の開通 ◎市役所と、京王電鉄の改修の進め方 ※京王電鉄は駅の改修と京王ストアーの改修を行う ※日野市は駅北側の整備を行う ※両駅（京王線とモノレール）を繋げる歩行者用通路工事は共同で進める

<参考資料5> 高幡地区区画整理事業の主な経過 竣工記念誌抜粋

（日野都市計画事業・高幡土地区画整理事業作成）

昭和60年12月27日	施行規定の制定
昭和60年11月12日	土地区画整理事業計画決定
昭和61年4月17日～30日	事業計画の縦覧
昭和61年5月30日	事業計画「設計の概要」縦覧
昭和61年6月1日	法務局（登記所）へ施行届出

↑

工事、事業計画変更の縦覧・換地の説明会

↓

平成11年2月10日	京王線立体交差完成
平成12年1月10日	多摩都市モノレール開業
平成14年3月29日	高幡不動駅前広場完成

<参考資料6> 万願寺歩道橋ふれあい橋

広報ひの—縮刷版—平成2年(1990)4月1日～平成4年(1992)3月15日 No748～No795 より「ふれあい橋」関係の見出し、記載内容の概要は次の通り。

① “橋の名称が決まりました 万願寺歩道橋(愛称・ふれあいばし)”

1991年(平成3年)3月1日 第770号

“昨年(平成2年)5月の公募と、今年(平成3年)1月の投票によって決まったものです。この地の字名が橋の名につき、ふれあいから喜びが生まれるよう願いをこめています。”

由来記 高尾山を源流に八王子日野の沃野を潤して多摩川に合流する浅川

古くより由緒ある農耕文化を育て、現在では都市河川となって市街地に貴重な自然区間をつくる

このあたりはかつて左岸は日野町万願寺、右岸は七生村高幡地籍の氾濫源であったところ今日都市化のすすむ未来を望んで土地区画整理事業を施行し住む人々の往来のため兩岸をつなぐ歩道橋を思い立つ

ここに緑と清流のまちにふさわしく優雅な吊り橋の景観を創って事業成功のモニュメントとし併せてこのまちの新たなシンボルを目指す

② “8月7日に開通式 万願寺歩道橋竣工 愛称・ふれあいばし”

1991年(平成3年)8月1日 第780号

“万願寺歩道橋は、つり橋形式で、長さ148m、幅員6m、塔高33m。歩行者と自転車だけが通行できる人道橋です。”

<参考資料7> (ふれあい橋架橋) 日野都市計画事業万願寺土地区画整理事業

事業計画書より

認可	昭和56年 1月8日	公告	昭和56年 1月17日
	昭和58年10月7日		昭和58年10月15日(第1回変更)
	↓		↓
	平成 元年 3月7日		平成 元年 3月30日(第4回変更)
			↓

施行者の名称 日野市

① 施行地区の区域

昭和40年6月7日建設省告示代1461号により日野都市計画万願寺土地区画整理事業を施行すべき区域として決定された一部で、施工地区の区域は、日野市大字新井、大字石田、大字上田、大字下田、大字日野、大字万願寺、大字宮の一部である。

② 土地区画整理事業の目的

都市計画法に基く市街化区域の整備の一環として、本地域の開発を図るため市街地開発事業として土地区画整理事業を施行し、良好な都市生活が営めるよう公共施設の整備及び住宅地、商業地、工業地の計画的な発展を図り、市街地環境の向上を意図するものである。

③ 事業施行期間

自 昭和56年1月17日～至平成8年3月31日(変更 平成5年3月31日)

④ 資金計画書

収入 国庫補助金、都補助金、市負担金、保留地処分金、その他
支出 付帯工事費(歩行者占用橋)869,000千円(800,000千円)

<参考資料8> ふれあい橋架橋の目的

日野市河川整備構想—緑と清流を生かすまちづくり—報告書

昭和63年1月 日野市 より

- ① まちづくりの一環としての役割
- ② 緑のネットワークの一環としての役割
- ③ 通勤、通学路としての役割
- ④ 日野市のシンボルとしての役割
- ⑤ 避難路としての役割

<参考資料9> 高幡不動駅前開発前と開発後の様子

(日野市都市計画化提供)

開発後の駅前



開発後の駅前



高幡地区土地区画整理事業竣工記念碑（平成15年 施行者 日野市）

「ねんも公園」内に建立。高幡地区まちづくり事業の目的が、碑の裏面に刻まれている。日野市のまちづくりから、私たちの生活と関係の深い政治の役目や働きを考える資料として活用できる。

平成15年建立

(2) 鎌倉幕府と真慈悲寺

(1) 中学校社会科（歴史的分野）学習指導略案（本時案）

1. 主題 「武士が鎌倉幕府をつくる」

2. 目標 頼朝が武家政権をつくり、全国支配の道を歩んでいった過程を理解させる。

3. 展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援	指 導 上 の 留 意 点
導 入	(1) 源平の内乱 ①「平氏に対して不満や反発がおきたのはなぜか」を班で話し合う。	・上皇や公家たちと、地方（武士）の両者の不満や反発を考えさせる。	
展 開	②頼朝はどのようにして権力を握っていったのだろうか。 (2) 頼朝と御家人 ③頼朝は家来とどのような関係をつくったのだろうか。 (3) 幕府と朝廷 ④鎌倉幕府の中央政治組織と律令制の仕組みとはどのような違いがあるのだろうか。 ⑤頼朝が鎌倉に幕府を開いたわけを話し合う。 ⑥頼朝が地方支配を進めた仕組みを調べる。	・頼朝の権力掌握の過程をおさえる。 ・頼朝と御家人の主従関係の強さについて把握させる。 ・「土地」を仲立ちとして封建制度が成立していく過程を考えさせる。 ・鎌倉幕府の中央集権政治を目指す仕組みを律令制と比較させる。 ・頼朝が鎌倉の地に幕府を開いた理由を、軍事面と政治面の二面から考えさせる。 ・守護・地頭の役割を調べさせる。 ・幕府が朝廷とは別に守護・地頭を置くことによって全国支配に向けた基盤づくりを形成していったことに気づかせる。	・「頼朝像」：簡単にふれる。 ・「源氏略系図・北条氏略系図」：義家と東国武士の関係から、頼朝の鎌倉幕府樹立との繋がりにふれる。 ・源義朝、頼朝、義経、奥州藤原氏の歴史ドラマにもふれておく（→吾妻鏡～真慈悲寺の年代にも絡む）。 ・封建制度成立の仕組みを表にまとめさせ確認する。 ・平氏による朝廷や政治への関わり方と、源氏による鎌倉幕府の武家政権の違いをおさえ、合理的な組織がつくられたことに気づかせる。 ・写真「空から見た鎌倉」や京・鎌倉の位置を示す地図をヒントにする。 ・幕府の地方支配の様子について、「鎌倉街道」「真慈悲寺」にふれ、「頼朝」や「鎌倉」や「権力」のもつ意味を考えさせ、また、我が地と鎌倉の繋がりが考えられるようにする。
整 理	⑦鎌倉幕府と朝廷との関係はどうなっていたのだろうか。	・武家と公家の二元支配について考えさせる。	・二元支配をおさえながら幕府・朝廷の今後、武家・公家の今後について予想させる。

資料

謎の真慈悲寺

～大伽藍が百草にあった？～

その昔、百草園の辺りを中心として大寺院があったという。名は「真慈悲寺」。まだ発掘段階で謎に包まれているとはいえ、「浅草寺」級の格式をもつ大寺院が百草山中にあった？らしい。「謎の真慈悲寺」は、山の上の百草園から中腹にかけて位置すると考えられている。

しかし、「真慈悲寺」の存在は、まだ「謎」の段階である。「真慈悲寺」が存在し、百草にあったという根拠は、次のいくつかの事実が明らかになってその信憑性がますます高まってきている。



柱跡遺構（郷土資料館提供）

あ

（１）「吾妻鏡」に記述があるということ。

「吾妻鏡」は鎌倉幕府の公式の歴史書であり、その記述の内容については信憑性が高く、「真慈悲寺」自体は確実に存在していることは間違いない。しかも、少し前までは「真慈悲寺」が何処にあったかが論争となっていたが、現在では「百草の地」でほぼ確定している。

「吾妻鏡」文治2年2月3日の記には、

『武藏国真慈悲寺はご祈祷の霊場也。然れどもいまだ寄付の庄園なきによって、仏は供俱の備へなく、僧は衣鉢の貯へを失う。ここに僧有尋今日参上し、一切経を当寺に安置し、破壊を修理すべく由、申し請くるの間、すなはち院主職に補せられるところなり。』

文治2（1186）年に真慈悲寺僧「有尋（うじん）」が鎌倉まで出向いて、「真慈悲寺は以前よりご祈祷の霊場なのに、近年は莊園を寄進するものもないため財政基盤が弱く困窮し、寺も修理ができないほど荒れている」として復興を申し出たことが書かれている。

*（参考）時代背景： 文治元年 壇ノ浦の戦い、頼朝・守護地頭、
文治2年 義経・奥州行

その後、「真慈悲寺」の名前が出てくるのは、建久3（1192）年のことである。

5月8日、鎌倉で催された後白河法皇の四十九日の法要の「百僧供（ひやくそうぐ）」に、浅草寺と並んで「真慈悲寺」が「僧3人」を送ったことが書かれている。この法要には鎌倉近縁の16の寺院から百名を超える僧侶が参列した。それぞれの寺院の僧の参列数が列挙され、「真慈悲寺」も浅草寺と同じ3名が参列したと記されているという。

この資料から、鎌倉時代に「ご祈祷の霊場」と崇められてきた「真慈悲寺」という寺があり、当時の「真慈悲寺」は浅草寺と肩を並べるほどの格式だったことがわかる。そして、この資料から「真慈悲寺」が源氏ゆかりの寺院であったこと、また、東国をはじめ日本各地に源氏、鎌倉の力が及んでいたことを知ることができる。

しかし、この寺はいつの頃からか姿を消したため、「幻の寺院」とされてきた。

（２）「真慈悲寺」と刻まれた阿弥陀如来像が存在していること。

現在の百草園の隣にある「百草八幡宮」には、背銘に「・・・日本武州多西吉富真慈悲寺・・・」と刻んだ「銅造阿弥陀如来坐像」（国指定重要文化財）が安置されている。その願文にある「武州多西吉富」（丘陵地東側の多摩市関戸を中心とする地域）という記述から、この仏像が武蔵国多西郡吉富郷真慈悲寺のものであり、この百草の地周辺にあった寺院であろうことが推察できよう。また、この仏

像の背銘には、「施主は源姓の女性」、「願主が僧慶祐」と刻まれている。

(3) 中世瓦が大量に出土したこと。

百草園内の発掘調査で大量の鎌倉時代の「中世瓦」が出土している。当時、瓦ぶきの建物といえばほぼ寺社に限られていた。この地に中世としては極めて数少ない「瓦葺き」の建物があったということは「真慈悲寺」がここにあったことを示す有力な証拠であろうか。それこそ「幻の真慈悲寺」の中核であって、東方の丘陵に関連遺構が一带に広がっていた大寺院なのではないかと強く推察されている。しかし、大量の瓦が見つかったものの、屋根の形がどのようになっていたか、それらの瓦の中に「真慈悲寺」を決定付けるものがあるのかは、まだ、わかっていない。中世瓦の大量出土に期待は膨らむものの、その精査は、今始まったばかりである。

(4) 寺院内墓所の存在を推察させる墓の石組みと骨つぼが発見されたこと。

百草の山から大栗川に向かって谷筋を走らせている。この谷筋の奥まった辺り（東電研修センター）で、常滑焼の玉縁口縁壺（たまぶちこうえんつぼ）が発見された。この壺は、石組み遺構と呼ばれる周りを石で囲まれた中から見つかった。壺の中から「人の骨」が見つかり、「蔵骨器」であることがわかっている。周囲には、同じような石が散在しており、寺域の一面を占める墓所と考えられるという。

(5) 法華経を収めた「経筒」が発見されたこと。

東電研修センター敷地から、かつて5口の「経筒」が見つかった（現存するのは3口）。経塚から出土したものと考えられ、ここでは「仁王塚」と呼ばれている。「経筒」には、それぞれ長寛元年（1163年）・永万元年（1165年）・建久4年（1193年）と記されている。経塚は、経典の功德を願って書写された法華経を収めた「経筒」が壺などに入れて埋納された場所である。仁王塚出土の経筒には「真慈悲寺」の文字はない。

(6) 「平場」の存在と、「柱跡」が発見されたこと。

「百草園」付近からは斜面を人工的に平らに整地したように見える「平場（ひらば）」が数箇所確認されている。以前から、この「平場」は寺院内のお堂の建物跡と考えられていた。平成19年に発掘調査が行われ、建物の柱の跡とみられる遺構が新たに見つかった。柱の跡は、百草園から南東260メートル地点の「平場」で見つかった。「平場」を掘り返したところ、直径約30～40センチの穴の跡が40個ほど見つかった。お堂や僧坊が建っていた可能性が高くなり、今後も周囲を発掘し、穴の跡の分布や時代を特定できる遺物の発掘調査を進めるという。平成20年にこの場所を拡張して調査したところ、140基を越える柱穴が見つかった。「柱の跡」が見つかり始めたとはいっても、遺構そのものとはまだ確かめられておらず、伽藍の配置などもわかってはいない。「真慈悲寺」は、いまだ多くの謎に包まれたままだ。

* * * * *

「百草の地に壮大な伽藍があった」というロマンは、出土している大量の瓦の中から「真慈悲寺」の「真慈悲」の一字でも刻まれた瓦が出てくれば現実のものとなる。今後の「柱跡」などの発掘調査によって、建物の規模や伽藍配置、また、寺域の広がりの様子が展開できれば「幻の真慈悲寺」が現代に蘇ってくることだろう。

(3) 満州(まんしゅう)に移住した日野の若い人たち

昭和の初めの日本はたいへんな不景気で、とくに農村はまずしく生活が苦しかった。昭和10(1935)年、日本が実権(じっけん)をにぎった満州国を朝鮮の北方につくった。政府はこの広い荒野を開拓するために、昭和11(1936)年から20年間で500万人を移民する計画を立てた。そして、七生村(今の日野市)三沢などに満州へ行くための訓練をする所を作った。とまる所は、直径10mくらいの円形の建物で真ん中に土間(どま)があり、その中央に屋根を支える柱が1本立っていた。ここで、6ヵ月集団で生活したり農業をしたりしてから満洲へ移住した。

昭和15年に北満州で生活をした人の話によると、見わたすかぎりの草原で木は1本もなかった。建物の中は土間でムシロがしいてあるだけだった。食事はむぎ飯と梅干し1個みそ汁というそまつなもので、部屋には電気はなかった。しかし、夏なので昼が長く、夜8時でも新聞が読めた。毎日スコップ1本で道路や畑を作った。一番困ったのは、あせをかいても風呂(ふろ)に入れないことだった。そこは水に乏しく、燃料が少なかったからだ。800人が一緒だったので、時にはけんかもあったが、ここには2ヵ月間いてまた日野に戻(もど)った。

この経験をもとに、昭和19年3月新京の近くの東京報国農場に日野の若い人22人をつれて移住し、農業を始めた。ここは土地もよく、新京は大都市だったので野菜を作って出荷すれば、儲(もう)かると考えた。しかし、戦争が激しくなり、日本にもどろうと思っている時に、ソ連軍が攻めてきた。日本軍も引きあげてしまったので困っていると、王発という中国の大学生が助けてくれ、かくまってくれたのでなんとか日本に帰ることができた。当時、多くの人がソ連軍に殺されたり、捕虜(ほりよ)になったり、中国人に引き取られたりして日本に帰れなかった。



(『聞き書き 日野の昭和史を綴る』)

◎児童の感想

- ・七生村三沢に満洲に行くための訓練をする所があって、自分の住んでいる町にそんな所があったんだと驚きました。満州へ行った人たちは大変だったんだなと思いました。
- ・満洲へ行く訓練をするのだから苦しいと思うのに、泊まる所が直径 10m くらいの建物で6ヵ月も集団生活をしてすごいと思います。ソ連軍が攻めてきて日本に帰れなくて大変で苦しかったと思う。
- ・日野の人も満洲に移住したということは、初めて知った。ご飯が少なかったり、風呂に入れなかったから、すごく大変だったろうなと思った。日本に帰れなかった人はどうしたのか疑問に思った。
- ・日本にもどろうと思っている時にソ連軍が急に攻めてきたからびっくりした。あと、食事はむぎ飯と梅干し1個、みそ汁というそまつなものだったので、そこにいたらうえ死にしていると思いました。お風呂に入れないので大変だと思いました。
- ・当時の人たちは満州で、食事もそまつでお風呂も週に1回ぐらいで、その上スコップ1本で仕事をしなければいけない生活で大変だったと思う。ふつうならけんかがたくさん起きてもおかしくないのに、反乱とかがなくてすごいと思った。

◎参考資料

- ・日野の昭和史を綴る会『聞き書き 日野の昭和史を綴る』日野市中央公民館 1994年
- ・資料通報第3集「扶余東京(大東) 新京東京報国農場 資料概要」京都民生局援護部 1957年
- ・『Kichijo』吉祥女子高等学校学園誌 1975年
- ・レジュメ 満蒙開拓と日野～戦後50年記念平和事業『戦争資料展』から～日野市ふるさと博物館 秦哲子 1996年
- ・『「郷土日野」指導事例集 第3集』日野市立教育センター、郷土教育推進研究委員会 2008年

(4)「中学校社会科副読本『のびゆく日野』地形図の活用」

1. 教材化の意図並びに教材の概要

郷土教育において、資料やデータなども大切であるが、自分の住んでいる地域を歩いて、自分の目で見て、確かめることが基本と考える。日野市内すべての中学1年生に配布される2万5千分の1地形図を活用して、ふだん見慣れている地域を多面的にとらえ、地域の興味・関心を高め、再発見の場としたい。そのうえで実際に歩いてみて現地を確かめさせたい。・・・**地図が好きになる・日野市が好きになる**

配布される地形図は一色刷りなので、地形図の扱いに慣れない中学生には読み取りにくいことが考えられ、国土地理院発行の多色刷りの地形図(武蔵府中・立川・八王子)やコンピュータ室を利用して国土地理院のホームページ(電子国土ポータル)で補いたい。

2. 指導計画

○ 中学校1学年社会科

単元「身近な地域を調べよう」2時間

(1) 単元のねらい

2万5千分の1地形図を使い、方位・地図記号・縮尺・等高線など地図の見方を学ぶとともに、地図のなかに大量の情報があることにも気づかせる。地図上での作業を通して、地域に対する興味・関心を高めるとともに、郷土愛が育まれることを期待する。

(2) 単元の指導計画

第1時(1時間)

教科書の八王子市の例を参考に、地図の種類・縮尺・方位・地図記号・等高線の読み方・断面図の描き方・新旧の地図の比較など実習を含め学ぶ。また、「のびゆく日野P4、レッツトライ1」の着色作業を通して日野市内の丘陵・台地・低地の分布を確認する。

第2時(1時間) 本時

日野市の地形図(二万五千分の一)を配布し、第1時で学んだ地図の見方の作業に応用することで読図の力を定着させる。地図上での作業を通して、実際に歩いて確かめてみたくなるような興味・関心を持たせる。

多色刷りの地形図については、できれば視聴覚機器を有効に利用して拡大して提示したい。また、実際に歩く場合の注意事項(危険箇所等や私有地の立ち入り許可)についても指導する。

(3) 展開例

	指導内容	備考
導入	・日野市の境界線を色鉛筆等でなぞらせる。 ・何の形に見えるか、質問することを通して地図に興味を持たせる。	多摩川の河原など普段あまり意識しない所にも境界線がどのように敷かれているか意識させる。 生徒の自宅や中学校の位置を確認させてもよい。
展開	・日野市の東西南北のはしをチェックさせる。 ・三角点を捜させる。(日野市内にいくつあるか、見つける競争をさせてもよい) ・水準点を捜させる。	その場所がどのような場所か、想像させてみる。 三角点には一等～四等まで等級があることにふれ、実際に見ないと等級がわからないことを説明する。 見つけた水準点がどのような場所に置かれているか、質問する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日野市の最高地点と最低地点を捜させる。(おおよその位置) ・地図記号の「記念碑」を確認させ、捜させる。 ・昭和48年の地形図を提示し、配布された地図と比較させる。当時の市役所・オリエント時計・蚕糸試験場・神鋼電機は現在何になっているのか。現在の市役所の位置に以前は何があったのか、 	<p>生徒の一色刷りの地図でわかりにくい場合は多色刷りの地形図を活用する。また、その場所がどのような場所か想像させてみる。</p> <p>いったい何の記念碑か、疑問を投げかけ、現地での確認に興味を持たせる。</p> <p>「のびゆく日野」の旧版の地図を使用してもよい。または、パソコン室のインターネットから各自で旧版の地図を画面に出してもよい。</p>
まとめ	地形図からさまざまな事柄が読み取れることを理解させる。	地形図から読み取れた事柄のうち、自宅や学校の近くを休日等に実際に歩いて確認させたい。

3. 資料

①日野市の東西南北のはし

- ・ 北端・・・北緯35度41分42秒
- ・ 南端・・・北緯35度38分32秒
- ・ 東端・・・東経139度26分28秒
- ・ 西端・・・東経139度21分28秒
- ・

②日野市内の三角点・水準点の位置および最高地点・最低地点、記念碑記号の位置

地形図は(平成20年、発行、武蔵府中) (平成18年、発行、立川)
(平成19年、発行、八王子) および2500分の1地形図(武揚堂発行)を使用

- ・ 三角点(170.1m)・・・多摩動物公園の敷地内(三等)
- ・ 三角点(102.3m)・・・東京電力研修センターの敷地内(四等)
- ・ 三角点(105.3m)・・・大坂上浄水池付近(三等)
- ・ 三角点((125.6m)・・・西武百草園団地西(三等)
- ・ 三角点(55m)・・・府中四谷橋南(四等)
- ・ 水準点(68.8m)・・・国道20号(日野橋南)(三等)
- ・ 水準点(73.5m)・・・国道20号(日野図書館前)(二等)
- ・ 水準点(114.9m)・・・国道20号(コニカミノルタ前)
- ・ 記念碑・・・百草園内、高幡不動境内、吹上公園、平山城址公園駅前、善生寺境内

※ 三角点、水準点の位置は開発等により移動・廃止する場合がある。

- ・ **日野市の最高点**・・・186.4m(多摩動物公園南方)
- ・ **日野市の最低点**・・・約52m(府中四谷橋付近)

③日野市立中央図書館にある日野市の地図(明治時代以降各年代の地図が揃っている)(コピー可)

- ・ インターネットでは国土地理院のサイト以外Google Earthも活用できる。

<実際に歩いてみて>

三角点の多くは施設の敷地内にある模様で確認するのは許可が必要。日野市内5つの三角点のうち、確認できたのは多摩動物公園の三角点のみ。府中四谷橋南の三角点は敷地内にあるとは思われないが、確認できなかった。

水準点も国道沿いの歩道に交通に支障がないように目立たなく設置されているため、確認するのが大変難しい。実際確認できたのは、日野図書館前の水準点のみ。

記念碑については、平山城址公園前の記念碑など区画整理で若干移動したと思われるものもあったが、ほぼ確認できた。



記念



水準



日野の最高地



多摩動物公園内の三

(5)「小学校社会科副読本『わたしたちの日野』

導入時の工夫 ～既習事項クイズの活用～

3年生社会科〔学習開始時〕の授業展開例

1. わたしたちの日野

わたしたちのまち

ねらい 「わたしたちのまちや地域」の様子を概括することから、これからの社会科の学習に興味・関心をもたせる。

展開

	児童の学習活動	教師の指導・援助
導入 10分	1. 今朝、家を出て学校に着くまでの道順や町の様子を発表する。	○4方面（4名）程度を指名して簡単に発表させる。
展開 30分	2. 「ふるさと検定クイズ」をしながら、わたしたちの町や地域の様子について概括する。 <ul style="list-style-type: none"> ・道路 ・施設 ・自然 ・人 } などを確認する。	○ここで扱う「ふるさと検定クイズ」は、1・2年生の時に学習したり経験したりした内容をクイズ化する。 ○検定クイズの各ステップ（1～4）の設問をクリアしていくことで、地域に対する興味・関心を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・1単位ステップは、5問。 ・5問中2問正答で1つのステップをクリア（合格）。学級の実態により1問正答で合格としてもよい。 ○答え合わせをしながら1・2年生時の生活科などの既習事項を確認していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・随時、写真や絵図を使って説明していく。 ・拡大コピー、OHP、実物投影機、書画カメラ、e-黒板などを利用した地域の白地図に該当事項を記入したり、図示したりしていく。
まとめ 5分	3. 3年生の社会科の学習の進め方について見通しをもつ。	○年間の社会科学習を見通す。

けんてい
ふるさと検定クイズ

初級 (2年生3月～3年生4月用)

対象：
七生緑小学校

ステップ1

- わたしたちの学校の名前は何か？
①日野だーい小学校 ②じゅんとく小学校
③七生 緑 小学校
- 学校がある町の名前は何か？
①豊田 ②百草 ③たまだいら
- わたしたちの町のあんぜんをまもってくれる人はだれですか？
①コンビニのお店の人
②会社ではたらいっている人
③おまわりさん
- ポストから手紙やはがきをあつめたり、家に手紙やはがきをとどけてくれる人はだれですか？
①おいしゃさん ②ゆうびんやさん
③学校の先生
- 学校のとなりにある公園の名前は何か？
①百草台自然公園 ②ちょうまんびら公園
③高幡台公園

ステップ2

- 学校の近くには、梅がたくさん咲くことでゆうめいなところがあります。その名前は何か？
①てっぺん山公園 ②百草園
③雨ごい公園
- 学校の前をとおっているバスはどこどこの間をはっていますか？
①「せいせき桜ヶ丘駅」と「高はたふどう駅」
②「たまセンター駅」と「百草団地」
③「日野駅」と「豊田駅」

- 正門の前の道を左に行くと、坂のどちゅうにびょういんがあります。名前は何か？
①三沢台しんりょうじょ
②日野市立びょういん
③はとうがんかいいん
- 日野に、キリンやライオンやぞうがいる大きな動物園があります。その名前は何か？
①あさひ山動物園 ②上野動物園
③多摩動物公園
- 「地面に白のシマシマがかいてある」道路をわたって良い所を何か？
①しゃどう ②おうだんほどう ③ふみきり

ステップ3

- 信号機についている所で、道路をわたっても良いのは何色の信号の時ですか？
①赤 ②だいだい ③青
- 本を読むことができたり、工作や料理など楽しいことができる所はどこですか？
①じどうかん ②びょういん
③アポロ広場
- 電ちゅうにはってある「通学路」のマークはどれですか？
①文 ②学 ③日
- 「もえるゴミ」は何色のふくろに入れて出しますか？
①だいだい色のふくろ ②緑色のふくろ ③白
いふくろ
- 救急車はふだんどどこにとまっていますか？
①しょうぼうしょ ②けいさつしょ ③学校

ステップ4

16 しょうぼう自動車はおもにどんな時にかつやくしますか？

- ①にもつをはこぶ時 ②火事の時 ③わるい人をつかまえる時

17 学校の東の方で「牛をかつている」所を何とっていますか？

- ①アポロ広場 ②うちゅう広場 ③地球広場

18 わたしたちの学校は、2つの学校がいっしょになってできた学校です。どことどの小学校でしょうか？

- ①七生小学校と緑小学校 ②竜峰小学校と多摩第二小学校 ③百草台小学校と三沢台小学校

19 わたしたちの地いきは、むかしはどのような所だったでしょう？

- ①丘りょう (小さな山のつらなり) ②川 ③田んぼ

20 わたしたちが「京王線」の電車にのる時につかう「駅」は、おもに何という名前の駅でしょうか？

- ①「高はたふどう駅」や「百草園駅」 ②「南だいら駅」 ③「ひら山じょうし公園駅」

ステップ5

21 「三沢」の土地の名まえは、三つの何があったところからつけられたのでしょうか？

- ①沢 (小さな川) ②池 ③山

22 わたしたちは、ある学校の子どもたちと交流しながら「人とのかかわり」を大切にしています。その学校の名前は何かといますか？

- ①七生特別支援学校 ②杉野服飾大学 ③東電学園

23 百草団地で8月の夏まつりの会場となっている公園は、なんとよばれていますか？

- ①アポロ広場 ②うちゅう広場 ③地球広場

24 学校の南の方(お昼ごろに太陽がある方)「倉沢」に

は、田んぼや畑があつたり、りんご・ブルーベリーをそだてたりしている緑がいっぱいの所があります。そのような所は何と呼ばれていますか？

- ①里山 ②山里 ③牧場

25 学校のそばの高台(高くなっている所)に高い塔(ほそ長いたてもの)があります。わたしたちの生活の何にかんけいがありますか？

- ①水道 ②電気 ③ガス

ステップ6

26 学校の南の方(お昼ごろに太陽がある方)の多摩市に

近い所に「ゆぎ農場」があります。そこでできるものはなんですか？

- ①にわたりのたまご ②お米 ③とうもろこし

27. 学校の北の方の三沢の下に「百草園駅」と「高幡不動尊」

をむすんでいる道路は、何とよばれていますか？

- ①川崎街道 ②野猿街道 ③こうしゅう街道

28. 6さいの時、七生の村で病気で死んだけれども「勝五郎」という名前で生まれかわったというお話があります。そ

の死んだ子どもは何と呼ばれていたのでしょうか？

- ①ほどくぼ小僧 ②倉沢一郎 ③三沢ぼっちゃん

3. 地域を知る指導者の育成

～ フィールドワークの実践 ～

過去3年間の本研究で、郷土資料を収集し新たに郷土教材化して学校現場に提供したり、郷土に関わる関係諸機関の利用法を紹介したりするなどの成果をあげてきた。この成果を郷土教育のねらいに沿って、より子どもたちに還元するためには、

1. 地域を知る指導者の育成
2. 郷土教育環境の整備の啓発
3. 郷土資料の情報提供の推進

が必要である。このことは、平成19年度郷土教育推進研究の課題として提示されており、本年度はこの課題の解決に向けた取り組みを進めた。この3つの課題解決に向けた取り組みのうちの第一「地域を知る指導者の育成」について以下に報告する。

郷土教育を進める上で重要なことは、指導者自身が地域のことを知り、地域に対して愛情と誇りをもって指導にあたってこそ、子どもたちの郷土愛が育っていく。この観点から、日野市や学区域について「より広く」、「より深く」知る指導者を育成することが大切となる。

今回、その実践活動として夏季休業中の7月31日に、小・中教員を対象にして豊田地区のフィールドワークを実施した。このフィールドワークは、市教委と郷土教育推進研究委員会の共同事業として、本委員会が講師となって実施した。

フィールドワークを通して郷土資料をどのように教材化するか、また、どのように実践していけばよいかを考えていった。「豊田地区を知ろう」をテーマに、中央図書館・NBC・中央図書館下湧水・豊田用水・豊田地区耕地整理碑・善生寺・七生中自噴水などを1日かけて研修した。

中央図書館2階の「市民資料室」・「リファレンス室」は、資料収集の場として学校の先生方にとって、とても魅力的な所である。図書館員が丁寧に対応してくれる。

中央図書館下湧水は、日野台地の南側の崖から湧き出している。湧水量は多く、サワガニやカワナなどの水生生物が生息しており、湧き出た水は豊田用水に流れ込んでいる。

中央図書館下にある「NBC」は、一般的にはなじみの薄い会社だが、実はメッシュテクノロジーの技術や製品は日本の産業や私たちの日常生活にとって大変重要な部分を担っている。各種フィルター・メッシュ製品、医療から車・テレビ・携帯・家電から、かつら・網戸・ポスター印刷、等々等、あらゆるところで活躍している。「NBC」の工場は、今は山梨の都留市に移転しているが、日野に工場が進出してきた昭和10年代にできた「日野の工業都市化」の一つを占めている。「NBC」は、学校の見学にも対応してくれる。

豊田用水は平山橋下の堰から取水され、豊田・川辺堀之内へと流れている。江戸期に築造されたといわれる。数カ所から湧水が流れ込んでいるため日野市の用水の中で一番水質がよい。用水の水は上

フィールドワークを通して郷土資料の教材化と実践のあり方を考える

豊田地区を知る

- 中央図書館
- NBC
- 中央図書館下湧水
- 豊田用水
- 耕地整理の碑
- 善生寺
- 七生中自噴水



田用水へ、余った水は排水口から再び浅川にもどる。かつてはこの用水を使って豊かな水田地帯が広がっており、用水は網の目のように延びていた。このいく筋にも伸びた用水路の景観は、住宅地の増加とともに大きく変貌してきている。

豊田耕地整理記念之碑は日野第二小学校の正門前に建っている。この碑は、明治43年から大正2年にかけて、豊田用水組合の人々の大きな努力によって成し遂げられた「耕地の改良と整備」の功績を後世に伝えている。

善生寺の敷地には、現在の日野市立日野第二小学校の前身である「豊田学校」があった。豊田学校は明治7年創立され、はじめは山口家の長屋が校舎であったが、明治12年豊田村・川辺堀之内村・上田村で資金を出し合って善生寺敷地内に校舎が新築された。昭和17年の1学期まで、1・2年、3・4年、5・6年がそれぞれ同じ教室で勉強した複式学級の校舎であった。

七生中学校のプールの北側に自噴水がある。七生丘陵の雨水を集めてここで滾々と自噴している。この水は浅川に流れ込んでいるが、土手内に「浅川ワンド」が整備され、水生生物が観察できる。また、七生中学校では、財団法人リバーフロント整備センターの助成を受け湧水を活用してビオトープがつくられている。

このフィールドワークは、中央図書館下の湧水から豊田用水、豊田地区の耕地整理、日野二小の前身「豊田学校」、浅川ワンド・七生中自噴水の見学や二小での実践事例などの学習会など、参加した先生方にとって充実した1日となった。「地域を知る先生方の育成」には、実際に視て、感じて、また、聴いて、調べての機会を設定することが大切である。市教委、教育センターのみならず、小教研・中教研の活動に位置づけたりして、「場」を数多く設定していくことが望まれる。

* [参加者の感想から]

・実際に自分の目で見るというのはとても貴重な経験となった。図書館で見つけた「日野クジラ」の話は子どもたちに早速話したいと思った。

・日野市は本当に自然が豊かな地域なのだなあという今回の地域巡りであらためて感じた。湧水が様々な場所にあり、それが用水につながっている。その用水にはたくさんの魚やカニ、水草などが生息しており、また、用水の水を使用して田んぼの稲を育てている。このように、日野市の水（湧水・用水）は人々の生活と密につながっている、無くてはならないものであると感じることができた。

・日野市のことを調べようとしたときに、資料を中央図書館で探せることを知りました。地域の教材化のために「資料室」の利用が効果的だと思った。しっかり調べ、子どもに合うものを授業につくっていきたいと思う。

・二小のすぐ近くに「NBC」という大きな会社があることをはじめて知った。子どもにとっては「メッシュ」というものが少しわかりにくいかもしれないが、社会化見学で行ってみてもおもしろいかなと感じた。

・今日の研修を受けて、学区の中の日野用水はどのように教材化できるだろうかと考えた。日野用水は生活の中でどのように活用されていたのか、また稲作とのかかわり、現在の保全活動など自分自身が学ぶ課題ができた。

・授業の実践例を見せていただき、用水を教材化して4つの意味「水の郷としての地域の特色」「自然とふれ合う」「文化財としての価値」「用水保全」を学び、子どもたちにふるさと意識を育んでいきたいという内容にとっても感銘を受けた。

・前任校で「絹の道」の授業をしたことがある。その道が「日野」につながり、「NBC」につながったことに、今日、感動した。日野に私自身が親しみをもったことが、今日一番の成果だった。

- 現地で実物を見ながらの学習は、写真や映像でのものとは大きく異なる。地域にある郷土教育の教材となるものを調べて、子どもたちが生きた学習ができるようにしたいと思う。



豊田用水を歩く



耕地整理の碑



豊田学校・豊田地区の歴史を学ぶ



二小にて学習会

4. 郷土教育環境の整備の啓発

郷土教育を推進するためには学習活動を進める上でも、また、子どもたちが普段から目にふれたりして親しみをもつ上でも環境を整えておくことが必要である。郷土教育を推進するための課題解決に向けた取り組みのうちの第二「郷土教育環境の整備の啓発」について、その実践を報告する。各学校でもこの実践例を参考にして、「我が学校」や「我がふるさと」に関わる環境の整備に工夫を凝らすことが大切であろう。

校内環境整備事例「郷土資料コーナー」

1. メモリアルコーナー



内に
伴い
てメ
平成
3階

平成18年に平山台校舎平山小・平山台小の統合に両校の思い出を飾る場としてメモリアルルームが作られた。20年の新校舎落成に伴い、大会議室前のメモリアルコーナーへと移転された。

メモリアルコーナーにある鐘や校名板などの実物資料は、3年生社会科「昔の暮らし調べ」の授業で活用するなどしている。

2. 図書室郷土資料コーナー



図書室の一角に郷土資料コーナーを設置している。日野市に関する書籍・資料をはじめ、多摩地区、東京都に関する書籍・資料がまとめられている。パンフレット類や切抜き資料などはファイリングして児童が調べやすいように並べられている。

3. 歴年の航空写真

周年行事等の記念に撮った校舎近辺の航空写真を年代順に配列し掲示している。写真を見比べることで地域の移り変わりを読み取ることができる。



4. 資料室



資料室に教員向け郷土資料のコーナーを設け、日野市に関する資料をまとめて保管してある。また、平山小・平山台小の周年記念誌を40冊以上まとめて保管し、学級ごとに活用しやすいようにしてある。



5. 郷土資料の活用のためのOJT

平山小学校では、年間を通し計画的にOJT研修を実施している。経験のある教員が講師となり、若い教員に様々な教科等の指導法を伝えている。

その一環として、平山地区を中心として日野市にある郷土教材の紹介と活用の研修と、「郷土日野」指導資料第1～3集をはじめとする校内にある郷土教材に関する資料についての研修を行った。

研修後には、身近な地域の歴史などに触れ、地域への関心と愛着を持ったという教員の声が聞かれた。また、知らなかったために活用できていなかった、郷土教材や校内にある資料を紹介されたことで、教員自身が活用してみようという意欲をもつことができた。

6. 校内の郷土資料一覧表の作成

所有する資料が校内のどこに保管されているかがひと目でわかる一覧表を作成しておくことが大切である。その一覧表は、職員室や資料室など、校内の要所要所に掲示しておけば必要ときにすぐ対応することができる。次表は、郷土資料一覧表の例の一部抜粋である。

No	分類	資料名	資料数	保管場所
1	地図	明治時代の平山地区の地図	1	小会議室
2	写真	昭和22年の航空写真	1	小会議室
3	写真	昭和43年の航空写真	1	小会議室
4	写真	昭和45年ごろの航空写真	1	小会議室
5	写真	平成5年の航空写真	1	小会議室
6	写真	平成15年の航空写真	1	小会議室
7	副読本	平山小130周年記念誌	60	資料室
8	副読本	平山小感謝の集い記念誌	200	資料室
9	副読本	農業冊子「平山新鮮組」	150	資料室
10	副読本	平山台小10周年記念誌	50	資料室
11	副読本	平山台小20周年記念誌	50	資料室
12	副読本	平山台小お別れ記念誌	50	資料室
13	小冊子	ひのっ子新選組探検隊	30	資料室
14	小冊子	ひらやま歴史マップ	20	図書室
15	書籍	日野市史	2セット	資料室・図書室
16	書籍	日野市史 史料集	2セット	資料室・図書室
17	書籍	市史余話	1	資料室
18	書籍	日野の自然	1セット	資料室
19	書籍	日野市内 史跡等資料集類	多数	資料室
20	書籍	画集 今昔日野	5	資料室
21	実物	チャイム用の鐘	1	メモリアルホール
22	実物	学校日誌等 資料	明治より	資料室
23	実物	明治期の卒業証書		資料室

5. 郷土資料の情報提供の推進

3つの課題解決に向けた取り組みのうちの第三の課題の「郷土資料の情報提供の推進」については、過去に発行した『郷土日野』指導事例 第一集・二集・三集のPDF化、そして、本年度発行する予定の第四集をPDF化すること、また、それらの資料画像を電子データ化して学習活動の中で活用できるようにすることを本年度の目標とした。

(1)『郷土日野』指導事例集のPDF化

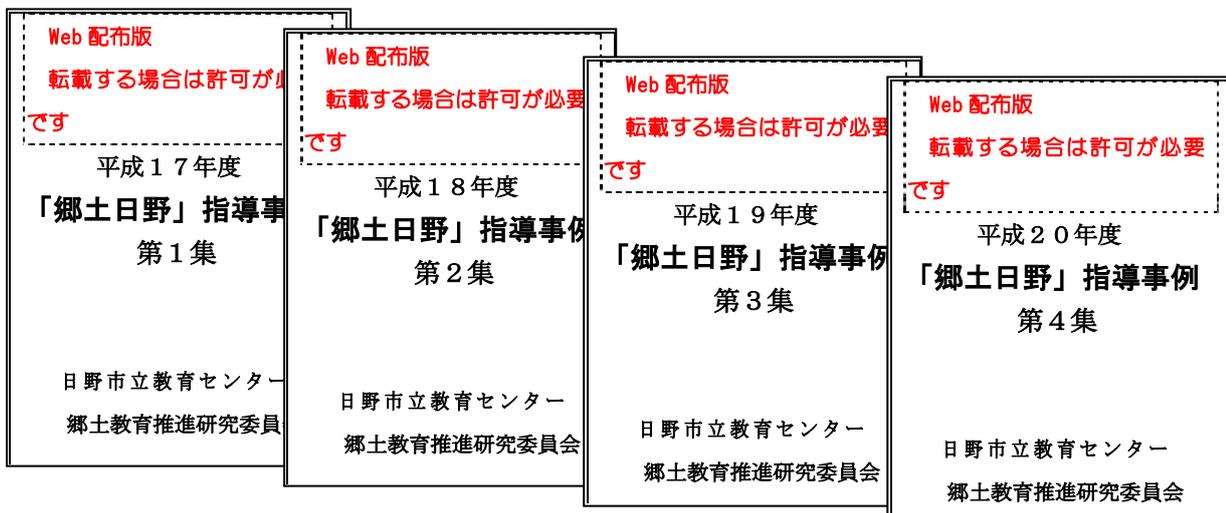
パソコンからパソコンへ文書を受け渡す「持ち運びのできる文書」としてのPDF (Portable Document Format) は、学校現場の郷土教育を進める上で大変有効であろう。紙冊子としての『郷土日野』指導事例 第一集・二集・三集、また、本年度版の第四集のPDF化を進めているので、「教育センター『ホームページ』」をアクセスしてご利用願いたい。

(1) 「事例集」を開く手順としては、次の通りである。

- ① 「教育センター『ホームページ』」をアクセスすると、トップページが出る。
- ② トップページ下の「ひのっ子郷土資料コーナー」にある『郷土日野』指導事例「第〇集」をクリックする。
- ③ ファイルのダウンロード「開く」をクリックする。
- ④ 「表紙」／「しおり」画面より、必要なページをクリックする。このような手順で「事例集」を読むことができる。

または、トップページの「各係事業紹介」の「ふるさと教育係」からも、「事例集」を開くことができる。

(2) 「事例集」の内容



平成17年度

- 事例1 郷土日野の特色・用水（豊田用水）の活用
- 事例2 副読本「ひのっ子新撰組探検隊」の活用
- 事例3 日野市立郷土資料館の活用
- 事例4 中学校社会科副読本「のびゆく日野」の活用を考えた中学校社会科の年間指導計画
- 事例5 校章・校歌の活用
- 事例6 社会科にいかせる郷土教材のワンポイント

平成18年度

Ⅱ. 授業で使える郷土教材

1. わが地域が誇る郷土教材

- (1) 日野の用水 (2) 日野煉瓦 (3) 甲州道中と日野宿 (4) 黒川清流公園と多摩平の森
- (5) 多摩平団地の今と昔 (6) 百草周辺の文化財 (7) 多摩八王子競馬場
- (8) 中世の武士 (9) 坂西横穴墓群 *原稿見当たらず (10) 平山陸稲と林丈太郎
- (11) 自由民権運動と日野

2. 郷土資料館、図書館などにある郷土資料の活用と活用例

- (1) 復元住居を活用した授業例 (2) 中学校「調べ学習」授業例
- (3) 小学校「古い道具と昔の暮らし」に活用できる資料例 (4) 郷土資料館利用案内
- (5) 参考文献<「郷土日野の歴史学習のために」－日野市史の概要紹介－>
- (6) 新選組のふるさと歴史館の利用 (7) 日野宿本陣の利用 (8) 日野宿交流館の利用
- (9) 新選組関係民間資料館の利用 (10) 日野市立図書館の利用
- (11) 図書館に問い合わせの多い質問

- ①住宅地図(航空地図) ②航空写真 ③広報ひの ④人口 ⑤湧水 ⑥大字・小字
- ⑦地名の由来 ⑧神社・寺院 ⑨多摩動物公園 ⑩方言 ⑪植物 ⑫動物 ⑬気象・天気

3. 日野の学校のあゆみ

- ①教材としての活用の意義 ②寺子屋から郷学校 ③明治から現在までの学校の変遷

Ⅲ. 郷土教材を活用した授業の展開例

- (1) 日野の用水(小4・総合「日野の用水」)
- (2) 平山陸稲と林丈太郎(小4・社会「地域の発展につくした人々」)
- (3) 高幡不動尊・高幡城・百草園・百草八幡宮・多摩動物公園(百草周辺の文化財)(小6・総合「これがわが町!百草の歴史」)
- (4) 自由民権運動と日野(小6・社会「明治維新をつくりあげた人々」)
- (5) 高幡の歴史(小6・総合「高幡プロジェクト」)
- (6) 旭が丘・昭和35年(中1・地理「身近な地域を調べよう」)
- (7) 多摩平団地の今と昔(中1・地理「身近な地域を調べよう～郷土日野を調べよう」)
- (8) 坂西横穴墓群(中1・地理「身近な地域の歴史」)
- (9) 多摩動物公園(中1・道徳「日野の宝ー地域につくした人々ー」)

平成19年度

Ⅱ. 授業で使える郷土教材と授業の展開

1. 収集・開発した郷土教材と授業の展開例

- (1) 平山に伝わる昔と今 (2) 東光寺に伝わる昔話
- (3) 多摩川と交通手段の移り変わり
- (4) 学校の歴史と地域 (5) 日本の歴史と日野の歴史(新選組)
- (6) 身近な地域から見た人口集中 (7) 工場の進出(コニカミノルタ・日野自動車)
- (8) 戦時下の日野 (9) 八王子城主北条氏照と三沢十騎衆

Ⅲ. 資料 ◎学校が保管している郷土資料に関する調査

- 1. 学校及びその周辺地域の航空写真撮影の時期とそのサイズ
- 2. 日野の用水や湧水、水車に関する資料
- 3. 学区域の特徴となる自然・歴史・文化に関する資料

平成20年度

1. 郷土教材を活用した学習活動実践
 - (1) 豊田用水の周りの土地の使われ方
 - (2) 日野市のごみ改革
 - (3) 食材と地域
 - (4) ペリー来航と日野の人々
2. 新開発郷土教材資料
 - (1) 地区の特色をいかした町づくり
 - (2) 鎌倉幕府と真慈悲寺
 - (3) 満州に移住した日野の若い人たち
 - (4) 中学校社会科副読本『のびゆく日野』地形図の活用
 - (5) 小学校社会科副読本『わたしたちの日野』導入時の工夫～既習事項ふるさとクイズの活用
3. 地域を知る指導者の育成 ～フィールドワークの実践～
4. 郷土教育環境の整備の啓発～校内環境整備事例「郷土資料コーナー」～
5. 郷土資料の情報提供の推進
 - (1) 『事例集』のPDF化
 - (2) 郷土教材画像の電子データ化
6. 郷土教育推進視点の拡大
 - (1) どのような視点が考えられるか？
 - (2) 具体例：①ふるさと教材の英語バージョン（勝五郎生まれ変わり物語）
 - ②校長（学級）講話（日野の方言）
 - ③ふるさと検定・クイズ化（初級～2年生まとめ・3年生導入期）
（中級～3年生まとめ・4年生導入期）

(2) 郷土教材画像の電子データ化

二つめは、郷土教材の画像を検索によって呼び出すことができるようにした。「教育センター『ホームページ』」から郷土教材の画像をアクセスして、学校現場の学習活動にすぐ活用できるようにした。例えば次のような手順で必要な画像を呼び出すようにした。

- ① まず、教育センターのWebサイトトップ画面から「ふるさと教育」の「郷土教育教材画像検索」をクリックする。

日野の郷土教材～画像検索					該当をクリック
ア	イ	ウ	エ	オ	<input type="checkbox"/>
カ	キ	ク	ケ	コ	<input type="checkbox"/>
サ	シ	ス	セ	ソ	<input type="checkbox"/>
タ	チ	ツ	テ	ト	<input type="checkbox"/>
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	<input type="checkbox"/>
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	<input type="checkbox"/>
マ	ミ	ム	メ	モ	<input type="checkbox"/>
ヤ	ユ	ヨ			<input type="checkbox"/>
ラ	リ	ル	レ	ロ	<input type="checkbox"/>
ワ					<input type="checkbox"/>
ン					<input type="checkbox"/>

日野の郷土教材～画像検索					該当をクリック
ア	イ	ウ	エ	オ	<input type="checkbox"/>
カ	キ	ク	ケ	コ	<input checked="" type="checkbox"/>
サ	シ	ス	セ	ソ	<input type="checkbox"/>
タ	チ	ツ	テ	ト	<input type="checkbox"/>
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ	<input type="checkbox"/>
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	<input type="checkbox"/>
マ	ミ	ム	メ	モ	<input type="checkbox"/>
ヤ	ユ	ヨ			<input type="checkbox"/>
ラ	リ	ル	レ	ロ	<input type="checkbox"/>
ワ					<input type="checkbox"/>
ン					<input type="checkbox"/>

- ① この画面を呼び出す。

- ② キーワードの頭文字をチェックする。ここでは、「コニカミノルタ」の「コ」をチェック。

コ

該当をクリック

- 耕地整理記念碑
- 甲武鉄道
- 虚空蔵菩薩立像(うなぎ伝説)
- コニカミノルタ
-
-

③ 頭文字「コ」をもつ「耕地整理記念碑」、「甲武鉄道」などいくつかのキーワードが出てくる。

コ

該当をクリック

- 耕地整理記念碑
- 甲武鉄道
- 虚空蔵菩薩立像(うなぎ伝説)
- コニカミノルタ
-
-

④ この「コ」の画面から「コニカミノルタ」をチェックする。

コニカミノルタ



⑤ 「コニカミノルタ」の画像が出てくる。この画像を活用して学習活動を展開していくことができる。

⑥ なお、指導者や子どもの必要に応じて「説明」をチェックすると、「解説文」が出てくる。

1. 社名

小西本店 → 六桜社 → 小西六 → コニカ → コニカミノルタ
 明治12年(1879) 明治35年(1902) 昭和11年(1936) 昭和62(1992) 平成15年(2003)

2. 昭和4年(1929)国産フィルム「さくらフィルム」製造成功

3. 新工場増設(昭和12年(1937)) ← フィルム需用増大(軍部からの要請)
(昭和15年(1940)東京オリンピック開催予定)

日野に新工場を建てた理由

- ① 立川や相模原の軍関係施設に近い立地条件
- ② 豊富で良質な地下水が得やすい
- ③ 電力料金が割安である
- ④ 日野の大工場の誘致政策(用地取得に協力的)

4. 昭和15年(1940) 日本初の国産カラーフィルム「さくら天然色フィルム」

5. 昭和30年代 ~ 高度経済成長、(インスタントラーメン、電気釜、冷蔵庫、電気洗濯機などの電化製品、自動車普及)

生活の向上は余暇を生み出す→レジャーブーム~カラーフィルム、カメラの需要大→業績急伸

- ・昭和32年(1957) 24枚撮りフィルム
- ・昭和49年(1979) ストロボ内蔵カメラ「ピッカリコニカ」
- ・昭和52年(1982) オートフォーカスカメラ「ジャスピコニカ」
フィルム入りカメラ「撮りっきりコニカ」
- ・オフィス機器、医療機器、フィルム、カメラ事業

6. 平成18年(2006)3月カメラ事業全面撤退

6. 郷土教育推進視点の拡大

教育基本法の「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできたわが国と郷土を愛するとともに……」を受け、「地域社会との交流や地域の自然や文化等を生かせるよう授業を工夫、改善する」を日野市の主な推進施策の一つとしている。この施策の具体的な事業としては、「日野の郷土教育推進研究・普及」を目指すこととしている。教育センターでは、各小・中学校に協力を求め郷土教育推進研究委員会を設置し郷土教育推進研究を進めてきた。過去3年間の研究は、「郷土教材を収集・開発」し、その郷土教材を活用した指導計画をつくり授業実践を進めてきた。

本年度もこの視点のもとに調査研究を進めているが、「郷土教材の収集・開発」による授業実践の視点のほかに日野市教育委員会が求める「日野の郷土教育推進研究・普及」の視点を洗い出し、資料として開発、整理しておくこと、なおかつ、具体事例を各学校に提供していくことが重要である。子どもたちが「ふるさと日野」を愛し、誇りに思う心情を培うためにはどのような方法があるだろうか？多様な視点で多様な活動を仕掛けることによって、子どもたちが心のうちに自然体で～無意識のままに～培われていくかを様々考えておくことが大切である。学校現場の実践の中で地道に進めていくことから少しでも郷土や地域への想いや感性を育てていきたいものである。本委員会では、多様な視点で多様な活動を仕掛けていくことによって、子どもたちが「ふるさと日野」を愛し誇りに思う心情を培うことができる観点に立ちその方策を検討してきた。郷土教育推進の視点の洗い出し・拡大の方策を以下に述べ、具体例を添える。

(1) どのような視点が考えられるか？

1. 郷土に関わる人物や話材、また、自然や地域環境を取り上げ授業化する。

例 国語：「方言と共通語」の単元で日野の方言について扱う。

算数：小学校2・3年「長さ」の学習の中で地元の概略地図も取り入れる。

音楽：異聖歌の童謡を取り上げる。

英語：ふるさと教材の英語バージョン（話材を英訳しておき授業に取り込む。話材を英訳させ友だちとの比較・修正作業を経て冊子化する。等々）

2. 郷土に関わる人物や話材、また、自然や地域環境を「校長講話」に取り入れる。

3. 開校記念日や周年行事に因んで、学校や地域に関する学習を教育課程に位置づける。

4. ふるさと検定表やクイズを作成して興味・関心を喚起させたり、郷土理解を深めさせたりして地域・郷土意識を高める。

・ 4（3）年生社会科授業導入時に、3（2）年生の復習と意欲付け・課題の明確化をねらいに実施

・ 特活～ふるさとを知ろう……集会活動、係活動

・ 中学校地理的学習で単元化～自然・観光・歴史・産業などの領域別に調査しクイズ化していく

5. ご当地ソング

6. 俳句

7. 地域名物選び（日野百選・△△町50選・〇〇小20選…）～例・一番橋から観る富士山・百草ファームのアイスクリーム……～

8. ふるさとに伝わるお話しなどを劇化して学芸会やクラブ活動などに取り入れる。

2. 具体例

具体例1：ふるさと教材の英語バージョン～中学校英語や総合学習における活用資料～

「勝五郎は なぜ“ほどくぼ小僧”と呼ばれるようになったか？」

勝五郎 うまれ変わり物語

死んだ人間が、また、生まれ変わるという不思議な話が日野の程久保に伝わっています。

昔々（江戸時代）、八王子の“中野村”に一人の子どもがいました。

彼は6歳で、名前は「勝五郎」といいました。彼には姉と兄がおりました。

ある日、勝五郎は姉や兄と一緒に遊んでいました。

その時、勝五郎は兄に聞きました。

「兄ちゃんの生まれる前は誰の子どもだったの？」

「僕は知らない！」

と兄は答えました。

そして、次に勝五郎は姉に聞きました。

「姉ちゃんの生まれる前は誰の子どもだったの？」

「私は知らない！」

私が生まれる前に、私が居る訳はない。お前はおかしな子だ！」

と姉は言いました。

姉は勝五郎に聞きました。

「お前は生まれる前のことを知っているのかい？」

すると勝五郎は答えました。

「僕はよく知っている。以前は日野の“程久保村”で生まれたんだ。

その時の僕の名前は“藤蔵”というんだ。

姉は呆れてしまいました。

「お父さんやお母さんに言うよ！」

と言いました。

“勝五郎”は慌てて言いました。

「お願い！ お父さんやお母さんには絶対に言わないで下さい。」

彼は泣き出してしまいました。

可哀想に思った姉は勝五郎に言いました。

「それでは、言わないでやる。

でも、お前が悪いことをした場合、今のお話をあなたやお母さんに話しちゃおうよ！」

A change story born in Katsugorou

A mysterious story that a dead human being is reborn is handed down in Hodokubo of Hino.

Once upon a time (the Edo era) there was one child in "the Nakano Village" of Hachioji.

He is six-year-old boy, called "Katsugorou".

He had an older sister and an older brother.

One day Katsugorou was playing with his older sister and older brother.

Then Katsugorou asked the brother.

"Whose child were you before you are born?"

"I do not know"

The brother answered.

And he asked the the sister next.

"Whose child were you before you are born?"

"I do not know!"

There is no possibility that I exist before I am born. You are a funny child!"

The sister said.

The sister asked Katsugorou.

"Do you know before you are born?"

Then Katsugorou answered.

"I know it well". I was born in "a Hodokubo Village" of Hino before.

My name was "Touzo" , then.

The sister has been disgusted.

"I say to a father and a mother!"

The sister said.

"Katsugorou" said in a hurry.

"Please! Please never say to a father and a mother."

He has burst into tears.

She felt sorry and said to Katsugorou.

"Then I will not tell.

But I will talk about the story to a father and a mother when you are bad!"

しかし、しばらくすると姉は“勝五郎”の秘密を父や母に話してしまいました。

とても不思議な話でしたので、両親はとても驚きました。

そこで両親は“勝五郎”に詳しく話を聞きました。勝五郎は自分の秘密を話したくありませんでした。

しかし、彼は次のようなことを両親に話したのです。

「“勝五郎”の前世の名前が“藤蔵”で、日野の“ほどくぼ村”で生まれた。

“藤蔵”は6歳の時、病気で死んだ。

死んで身体はなくなったが、魂は残った。

少しして、八王子の“中野村”の現在の母親の中に入って、“勝五郎”として生まれ変わった。……」

その後、“勝五郎”が話す内容は全て事実と合っていた。

また、“勝五郎”は“藤蔵”しか知らないことも話した。

この“勝五郎”の秘密は、やがて“中野村”の人々に知られることとなりました。

彼は「ほどくぼ小僧」のあだ名で呼ばれるようになった。

そして、“ほどくぼ小僧”の名前は江戸や京都にまで知られるようになりました。

死んだ人間が又生まれ変わったという不思議な話は、“程久保”の“藤蔵”の子孫に今でも語り継がれています。

However, the older sister has told the secret of "Katsugorou" to father and mother after a while.

Because it was a very mysterious story, the parents were surprised very much.

So the parents asked "Katsugorou" the story in detail.

Katsugorou did not want to talk about his secret (the memory of the previous existence).

However, he told the following thing to his parents.

The name of the previous existence of "Katsugorou" was "Touzou" and he was born in "a Hodokubo Village" of Hino.

"Touzou" died at the age of 6 years old, because of a disease

I was dead, and the body disappeared, but the soul has left.

After a while I was in the present mother in "Nakano Village" of Hachioji and was reborn as "Katsugorou".

All the content of the story that "Katsugorou" told matched the facts afterwards.

In addition, "Katsugorou" talked about the things that only Thozo knew.

The secret of this "Katsugorou" became well known to the people of "Nakano Village" before long.

He became called by the nickname "The Hodokubo Boy".

And the name of "The Hodokubo Boy" became well known to Edo and Kyoto.

The mysterious story that a dead human being was reborn is even now handed down by a descendant of "Touzou" of "Hodokubo".

*参考

handed down (後世に) 伝える

descendant 子孫

具体例 2 : 校長講話

「校長講話」に郷土に関わる話を取り入れる ～～「日野の方言について」～～

～第1週～

お早うございます。今日の私の話は、昔、日野で使われていた言葉をつかった文章を読んでもみます。どのような内容か、よく聞いていてくださいね。

あざがわの橋を渡ったしがしがわの『ぼく』の所にしゃがんで、つぶあしの小さな女の子が「にゃー、にゃー」と泣いていました。
「おめえ、どうしたの？」と聞くと、
「かさがにゃー、かさがにゃー。」と言って泣いていました。
「おめえ、何時までも泣いてばかりいないで、ごうぎだからその辺を探してみたらどうだベエー！」と言うと、
その女の子は、「うん！」と言っておっぱしました。
じぶんどきになるまで、くさぼっこで遊んでいようと思ったけれど、ひだるくだったので家に帰っておこじゅうを食べました。

どうでしたか？ だいたい、わかったでしょう。でも、「つぶあし」とか、「ひだるく」とかは、どうでしょう？ わかりますか？

私が、今、読んだ文章を校長室の前の掲示板に貼っておきますので、わかった人は、今使っている普通の言い方に直して届けてくれると嬉しいです。その時、〇年〇組、名前も書いておいてくださいね。「今、つかわれている普通の言い方だとどうなるか？」については、来週の児童朝会の時にお話しします。

～第2週～

お早うございます。今日の私の話は、先週の続きです。先週、私は、「昔、日野で使われていた言葉をつかった文章」を読んでもみました。もう一度、読んでみますね。 ～～ 再読 ～～

今度は、この文章を、今、使われている普通の言い方と比べながら読んでみます。

浅川の橋を渡った東側の『木の根っこ』の所にしゃがんで、素足の小さな女の子が「無いヨー、無いヨー」と泣いていました。
「君どうしたの？」と聞くと、
「傘が無いヨー、傘が無いヨー。」と言って泣いていました。
「君、何時までも泣いてばかりいないで、えらいからその辺を探してみたらどうだい！」と言うと、
その女の子は、「うん！」と言って行ってしまいました。
食事時になるまで、草むらで遊んでいようと思ったけれど、お腹がすいてきたので家に帰っておやつを食べました。

今では、殆んど「日野言葉」をつかって話す人はいなくなりましたが、【木の根っこ】を『ぼく』、【素足】を『つぶあし』、【お腹がすく】を『ひだるく』など、昔は、私たちの日野でも独特の言葉をつかっていたのです。

具体例3：ふるさと検定・クイズ化

ふるさと検定クイズ（中級）

「3年生まとめ～4年生導入」期

対象：日野市全体

ステップ 1

1. 日野市の市章（市のマーク）はどれですか？



2. 日野市のシンボルの鳥は何ですか？

- ①はと ②カワセミ ③うぐいす

3. 日野市のシンボルの花は何ですか？

- ①チュウリップ ②あさがお ③きく

4. 日野市のシンボルの木は何ですか？

- ①さくら ②いちょう ③かし

5. 日野市の形は、ある動物の顔の形に似ていますある動物とは何ですか？

- ①ライオン ②犬 ③さる

ステップ 2

6. 日野市と立川市の間を流れている川は何川ですか？

- ①多摩川 ②浅川 ③黒川

7. 日野は、「三多摩の（ ）」といわれるほどの農村でした。

- ①米ぐら ②生鮮市場 ③台所

8. JR中央線は、昔は「（ ）鉄道」といいました。

- ①甲州 ②甲武 ③三多摩

9. 「旭が丘」に住んでいた「翼聖歌」の作った有名な童謡は何といいますか？

- ①落ち葉 ②夕日 ③たき火

10. 日野の名産として知られる秋の果物は何ですか？

- ①みかん ②なし ③すいか

ステップ 3

11. 日野市内を走っている高速道路はなんといいますか？

- ①中央自動車道 ②東名高速道路 ③首都圏中央連絡自動車道（圏央道）

12. 日野市にはJRの駅が2つあります。日野駅と何駅ですか？

- ①豊田駅 ②立川駅 ③八王子駅

13. 日野市にある京王線の駅はいくつありますか？

- ① 3つ ② 4つ ③ 5つ

14. 日野市にあるモノレールの駅はいくつありますか？

- ① 3つ ② 4つ ③ 5つ

15. 日野市内で一番人口の多い町はどこですか？

- ① 南平 ② 多摩平 ③ 旭が丘

ステップ 4

16. 梅雨の頃、高幡不動尊境内で名物となっている花は何ですか？

- ① 梅 ② あじさい ③ つばき

17. 京王線の日野市内の駅で、「特急」「準特急」がとまるのは、何駅ですか？

- ① 南平駅 ② 高幡不動駅 ③ 平山城址公園駅

18. 日野市の人口は、昭和35年頃から急に増えてくるにつれて何が増えてきましたか？

- ① 学校 ② 田んぼ ③ 林

19. 日野市の東側にある「市」は、何市ですか？

- ① 府中市 ② 八王子市 ③ 多摩市

20. 日野市で土地の高さが低い地域はどのあたりですか？

- ① 多摩川・浅川合流点 ② 日野市役所あたり ③ 多摩動物公園

ステップ 5

21. 田や畑は、おもにどのような所に多くありますか？

- ① 低地 ② 台地 ③ 山

22. 商店は、おもにどのような所に多くありますか？

- ① 駅のそば ② 川のそば ③ 住宅地

23. 工場は、おもにどのような所に多くありますか？

- ① 大きな道路の近く ② 駅前 ③ 広い川のそば

24. 「太陽にほされ」「風にさらされて」漬け物にされる日野名産の野菜は何ですか？

①万願寺ほし柿

②石田寺白菜

③東光寺大根

25. 日野の特徴をあらわしたキャッチフレーズは何ですか？

①水と緑の郷

②太陽と緑の郷

③水と太陽の郷

ステップ 6

26. 日野にはきれいな水がわきでている所がいくつもあります。そこは、何とよばれていますか？

①湧水

②水源

③温泉

27. きれいな水がわきでている所で栽培している農作物は何ですか？

①わさび

②さつまいも

③トマト

28. 日野市には、昔から「五街道」とよばれている大きな道路が通っています。何といいますか？

①川崎街道（川崎道中）

②甲州街道（甲州道中）

③東海道（東海道中）

29. 日野市で「ごみ」をかたづけている施設があります。その施設の名前は何かといいますか？

①ごみ再生工場

②ごみ埋立地

③クリーンセンター

30. 日野市にある大工場「コニカミノルタ」では、どのような製品をつくっていますか？

①日用雑貨関係

②食品関係

③写真関係

ステップ 7

31. 日野市にある大工場「日野自動車」では、おもにどのような自動車をつくっていますか？

①乗用車

②トラックやバス

③オートバイ

32. 昔の人々がどのような道具を使っていたかを見学するためにはどこへ行けばよいでしょう？

①郷土資料館

②ふるさと歴史館

③中央公民館

33. JR中央線がまだできていない頃の昔の地図を見ると、多摩川に「渡船場」の文字が見えます。「渡船場」とは何でしょう？

①川を船で渡る所 ②船をつないだ橋で川を渡る所 ③川を渡るための船をつくる所

34. 日野市を通っている「京王線」を、昔は何といったでしょう？

①玉南鉄道 ②甲武鉄道 ③多摩鉄道

35. JR中央線ができたころは、どのような汽車が走っていましたか？

①電気機関車 ②ディーゼル機関車 ③蒸気機関車

ステップ 8

36. 昭和15年ころから日野市で急に人口がふえたのは、どんなことがあったからでしょう
か？

①大工場がたくさんできた ②大学がたくさんできた ③大きな公園ができた

37. 6さいの時、七生の村で病気で死んだけれども「勝五郎」という名前生まれかわったという

お話しがあります。その死んだ子どもは何と呼ばれていたでしょう？

①ほどくぼ小僧 ②あそう太郎 ③三沢ぼっちゃん

38. 昭和20年4月4日、日野がアメリカの飛行機にばくげきされ、たくさんの人が犠牲に

なりました。飛行機によるばくげきのことを何といいますか？

①飛行戦隊ゴーオンジャー ②宇宙こうげき ③空しゅう

39. 日野では、明治時代の中ごろから蚕をそだてる農家がふえました。蚕から何をつくっていま
したか？

①もめん ②生糸 ③毛糸

40. 日野市にある大工場「東芝日野工場」では、たとえば主にどのような製品をつくっていますか？

①テレビ ②冷蔵庫 ③携帯電話

41. 日野市にある大工場「富士電機」でつくっている物の中に「機械の動きを見守る装置」

もつくっています。何といいますか？

①監視制御システム ②電気可動システム ③電気機械見守り装置

Ⅲ. 研究のまとめ

本年度は「日野」の郷土教材の収集・開発をはじめ、昨年度までの課題となっている事柄について、また、郷土教育を進める視点の洗い出し（拡大）について研究を進めた。以下、それぞれの取り組みについて成果と課題を概括しまとめとする。

本年度の研究の取り組み	成 果	課題或いは今後に向けて
① 郷土教材を活用した学習活動を実践する。	社会科や総合的な学習の時間に、地域や日野の郷土に関連する教材を使って計画的に授業実践することができた。事前に収集した資料・情報をもとにした学習を進めながら、随時、新しく得た資料・情報を加えつつ実践を積み重ねることができた。	郷土教材を開発し、学習活動事例を数多く提供していく。今後取り上げたい新しい郷土教材の候補としては、「百草の里山」、「伝承・芸能」、「日野の名産」等が考えられる。これらを題材とした教材開発の可能性を探っていくことも検討課題の一つであろう。
② 郷土教材を新しく開発し資料としてまとめる。	学習活動化できる資料として、「高幡の町づくり」、「真慈悲寺」、「お台場と日野」、「日野の地形図」を題材とした郷土教材を新しく開発することができた。	
③ 地域を知り、理解する指導者の育成活動を行う。	本年度実施した豊田地区のフィールドワークは、参加者自身が地域の様子を肌で感じ、指導の充実に資する思いを強くもってくれ大きな成果を得ることができた。	実際に現地を「視て・触れて・感じる」臨地研修の機会を今後も継続するとともにその機会を増やすことも大切である。できれば「学校単位の“地元フィールドワーク”」の計画を加えることも望まれる。
④ 「郷土資料コーナー」の実践例を紹介し、校内環境整備のあり方を啓発する。	実際の資料コーナーの写真や、資料の所在を示す一覧表の例を紹介し、郷土資料整備のあり方を提供することができた。	学校によって温度差のある各学校における郷土資料の整備状況を調査することなどを通して、資料整備が具体的に実現できるよう各校に働きかけることも啓発の一つの方法であろう。
⑤ 郷土教材を電子データ化し郷土教育の普及を図る。	過去に発刊した「指導事例集」第1集・第2集・第3集、そして、本年度の第4集をPDF化して各学校に提供するシステムができた。	郷土教材資料の画像を電子データ化し、学習活動に利用しやすいようにするとともに、郷土教材資料の画像数を増やし、学習資料としての価値を高める。
⑥ 郷土教育推進のための多様な視点の拡大を図る。	子どもたちに郷土意識を根付かせるためには、様々な学習活動の中で状況に応じて多種多様な具体的事例を用意しておくことが大切である。本年度は、その第一歩としての数例を提供することができた。	郷土教育のあり方を検討しながら郷土意識を醸成する具体的事例を数多く開発して各学校に提供していく研究を深めたい。また、その内容を電子データ化して、指導者自身また子どもたち自身が取り組みやすい具体事例を提供していくことが重要である。

資料

資料1 「勝五郎生まれ変わり物語」

異端の国学者『平田篤胤』は、あの世から戻ってきたと語る勝五郎の話をまとめ、『勝五郎再生記聞』を著した。平田篤胤は、復古神道の大成者として知られ、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長とともに国学四大人とよばれる。

この「生まれ変わり物語」は、平田篤胤が取材した記録と奇想に満ちた持論を展開したお話である。『勝五郎再生記聞』は、江戸の世を騒がせた輪廻転生譚として一世を風靡した。

明治になって、『小泉八雲』は『平田篤胤』の『勝五郎再生記聞』をもとに、随筆集『仏の島の落穂』の中で『勝五郎の再生』を著わし、世にも不思議な話を世界に紹介したのである。

* * * *

文政五年（一八二二年）十一月のある日のこと、武州多摩郡中野村（現八王子市東中野）に住む勝五郎という八歳の子どもが、姉、兄とともに近くの田んぼのほとりで遊んでいた。姉の『ふさ』は十五歳、兄の『乙次郎』は十三歳だった。勝五郎は、ふと兄に向かってこんなことを言った。

「せな（兄）は、今の家に生まれる前、もとはどこの誰の子どもだったんべー？」

「?・・・、おらは、そんなことはしらねえ」

「ふさよー。今の家に生まれる前、もとはどこの誰の子どもだったんべー？」

勝五郎は、また姉に向かって同じようなことを聞いた。姉のふさは、

「おみゃー（お前）よう、生まれる前にどこの家の誰の子どもだったかなんてわかるわけがないべー。死んでから、また、生まれてきたなんてわかるわけなんてないべー。おかしなことを聞く子だねえ」と言って嘲り笑った。

しかし、どうしても納得できない様子で

「それなら、姉ちゃんは生まれる前のことは知らないのかい？」

「そんなら、おみゃー、知ってるのかい？」

「おらはよく覚えてる。もとは程久保村（日野市程久保村）の『久兵衛』という人の子どもで、『藤蔵』っていうんだ」

「……なに、おみゃーよう。それはまた不思議なことを言うもんだべー。おっとつあんやおっかさんに言わなくちゃ」

と言ったので勝五郎は顔色を変え、泣きながら頼んだ。

「ごめん。頼むから言わないでくれよ」 「そんなに頼むんなら言わないでおいてやるけど、ただし、悪いこととして言うことを聞かないときは絶対いつけるからね」

と約束してその場はそれで収まった。

その後、勝五郎が兄弟喧嘩をするたびに

「おみゃー、そんなにいうことをきかないと、あのことを言うべー」

と言うと、すぐに喧嘩は収まってしまった。両親や祖母が怪訝に思って、姉のふさに

「あのことって何のことだべー？」

と尋ねたのだが、姉のふさは言おうとはしなかった。さては親に隠れてどんな悪いことをしているのかと懸念した両親らは、勝五郎に隠れてふさを攻め立てた。ふさは隠しきれずにありのままを語ったが、両親らはますます膨れあがる疑念を抑えることができなかった。勝五郎本人をなだめたりすかししたりするなどして、ようやく口を開かせた。八歳の勝五郎が語るには、

「おいらは、もともと程久保の『久兵衛』の子で、おっかあの名は『おしづ』というんだ。おらが小さい時に『久兵衛』は死んで、その後に『半四郎』という人が来ておっとうになり、とても可愛がって育ててくれたんだ。だけど、おらは六歳の時に死んだんだ。死んだその後にこの家のおっかあの腹に入って生まれたんだ」

と言うのである。けれども、子どものあどけない言葉で、余りにもおかしな、怪しい話なので相手にしないでおいた。母親の『せい』が、勝五郎の妹に乳を飲ませるたり寝かしつけたりしていたので、勝五郎は祖母の『つや』に夜ごと添い寝をしてもらっていた。ある夜のこと、勝五郎は祖母のつやに、

「程久保の『半四郎』の家へ連れて行ってくれ！あっちのおっとうやおっかあにも逢いたいんだべー！」
と言うのを祖母はおかしなことをいう子だと思って相手にせず、聞き流していた。しかし、その後も、夜な夜な同じように行きたがるのでいろいろと問いただしてみた。

「それなら、ここへ生まれてくるまでの様子を詳しく話してみい！」
勝五郎はあどけない言葉ながら、それまでのいきさつを詳しく語って、
「おっとうやおっかあのほかには誰にも言うな」
と何度も何度も繰り返した。

* * * *

「前世のことは、四歳ころまではよく覚えていたけど、次第に忘れてしまった。死ぬほどの病気ではなかったらしいのに、貧しくて薬を飲めなかったので死んでしまった。（疱瘡だったことは知らなかったという。勝五郎が、後日、人にそう聞いて知ったということである。死亡年月日は文化七年二月四日）息が止まった時は全然苦しくなかったけれど、その後しばらく苦しい思いをした。それが過ぎると苦しいことは全くなかった。体が桶の中へ強く入れられると、自分は桶から飛び出してしまい、山へ葬られに行く時は、白く覆われた桶（棺）の上に乗って行った。桶を穴へ落とした時、大きな音の響きにはとても心にこたえた。今でもよく覚えている。僧たちがお経を読んだけれども、何とも思わなかった。銭金をたぶらかし取ろうとするだけで何の役にも立たないと気がつき、ひどく憎たらしく思った。それで嫌になって、家に帰ってしまった。家では人に話しかけても聞こえない様子だった。すると、白髪を長く垂らし、黒い着物を着た『翁』が出てきて

「こっちへ来なさい」

と誘われた。言われるままについていくと、何所ともわからない段々と高くなっていく綺麗な草原に出た。そこであっちへ行ったりこっちへ来たりしてとびまわって遊んだ。花がたくさん咲いているところで遊んでいた時、花の枝を折ろうとしたら、小さなカラスが出てきてけたたましく威された。今でも怖かったのをよく覚えている。また、あちこちで遊び歩いていると、家では親たちが何か喋っているのが聞こえた。僧がお経を読む声も聞こえたけれども、憎らしく思うだけだった。

供えられていた食べ物を食べることはできなかったけれど、中でも、温かいものはその湯気の香りで美味いと思った。七月に庭火(かがり火)を焚いた時も家に帰った時には、団子などが供えてあった。そんなふうにして、しばらく過ごしていたある時、例の翁と一緒に道を歩いていると、翁がこの家(源蔵の家)を指して

「この家に入って生まれよ！」

と言った。教えられるままに翁と別れ、庭の柿の木の下で様子をうかがっていた。三日ほど経って、窓の穴から家の中に入り、更にかまどのそばで三日ほどいた。その時、おっかあがどこか遠いところに行ってしまうという話をおっとうとしていたのを聞いた。

(後に、源蔵の言うことによれば、これは勝五郎が生まれた年の正月のことで、ある夜、寝間で「このような貧乏暮らしに子が二人いては老母を養うにも事欠く。お前は三月から江戸へ奉公に出るといい」と夫婦で話したことがあるという。このことは夫婦以外には知るはずがないという。)

その後、おっかあの腹に入ったように思うが、よく覚えていない。腹の中ではおっかあがつわりで苦しいだらうと思った時には外に出て、母親のそばに寄り添ったりしたことがあった。生まれた時は全く苦しくなかった。(程久保村で藤蔵が文化七年に死んでから六年目に当たる)。この他、どんなことも四つ、五つまではよく覚えていたけれども、だんだん忘れてしまった」

* * * *

祖母は、勝五郎のその話を聞いて、益々、怪しいと思った。ある時、年寄りの仲間の集まりで、
「程久保村で久兵衛という人がいるのを知っている人はおらんか？」

と祖母が尋ねた。すると一人の男が

「わしは知らんが、その村に親戚がいるので問い合わせてみるべー。それにしても、なぜそんなことを聞くんじゃ？」

祖母もとうとう黙っている訳にもいかず、勝五郎のことを話したのである。

そのうちに、正月の七日になって程久保村からひとりの老人が訪ねてきて、

「わしは、程久保の半四郎とは親しくしておる。『久兵衛』は十五年前に亡くなって、その妻の後夫になったのが『半四郎』というんじゃ。このごろ、人づてに久兵衛の子で六歳で死んだ『藤蔵』が、この家に生まれ変わったと聞いて、半四郎はととても驚き、余りにも不思議な話なので、まず、わしを遣わしたというわけだ。」

話をいろいろと語り進める程、お互いに奇妙なことであると怪しみつつ、老人は帰っていった。

すると、この話はずいぶん多くの人の知るところとなり、わざわざ見に来る人もあった。勝五郎が外に出ると、人々は珍しがって

『ほどくぼ小僧』、『ほどくぼ小僧』……

と言って囃し立てた。勝五郎は、恥ずかしがって外に出たがらなくなった。

「だから人には言わないでといったのに…」

とぐずるのであった。このようなことがあって、勝五郎は半四郎の家へ行きたがるようになった。また、夜通し泣くのであった。夜が明けてから、祖母が勝五郎に泣いていたことを言うと、

「覚えていないべー」

と言うだけであった。こういうことが何回も続いたものだから、祖母は、『これは半四郎のもとへ行きたい、行きたいと思いつめたせいだ』と思うようになった。勝五郎の言うことがたとえ空言だとしても『男ならともかく、歳を重ねた私が連れて行くのであれば、人もそう嘲ることもないだろう』と祖母は思うようになっていった。正月の二十日になって、祖母は勝五郎を一里半ばかり離れた程久保村に連れて行った。山を登り山を下りして、漸く程久保村に入った。祖母が

「この家かい？」

と勝五郎に言っても

「まだ先だ。」

と言いながら、どんどん歩いていく。

「あそこの家かい？」

「いや、まだ先だ。まだ先だ。」

と言うばかり。祖母が見当を付けかねていると、勝五郎は、

「半四郎の家は三軒並んだ真ん中の家だ。」

「家の裏はすぐ山になっているんだ」

と言う。祖母の先に立ってずんずん行くうちに、

「この家だよ！」

と、駆け込んでいった。祖母が、まず、主の名を問うと

「わしの名は『半四郎』」

妻の名を問うと

「『しず』」

と言うのであった。半四郎夫婦は人づてに聞いたことはあったものの、祖母の語る話を聞いては驚いたり、怪しんだり、不思議がったりしながらも、亡き息子『藤蔵』を思い出して悲しみの涙にくれた。夫婦は勝五郎を抱き上げ、つくづくと顔を見つめながら

「死んだ藤蔵の面差しによく似ている」

と抱きしめるのであった。勝五郎は抱かれながら、向かいの『たばこ屋』の屋根を指差して、
「前はあんな屋根はなかったべー」

「あの木もなかったべー」

などと言うのであった。みんなその通りだったので、驚くことしきりであった。近くに住む半四郎の家の親族も集まってきては勝五郎の顔をしげしげと見つめるのであった。

「藤蔵にそっくりじゃ！」

その中に、久兵衛の妹の乳母がいて、

「藤蔵のおっとうの久兵衛にもよく似とる」

と涙を流して泣くのであった。その後も、勝五郎が

「程久保へ行きたいべー。久兵衛の墓参りがしたいべー」

と訴えるのであった。父の源蔵は、

「そのうちに連れて行ってやるべー」

「そのうちになー・・・」

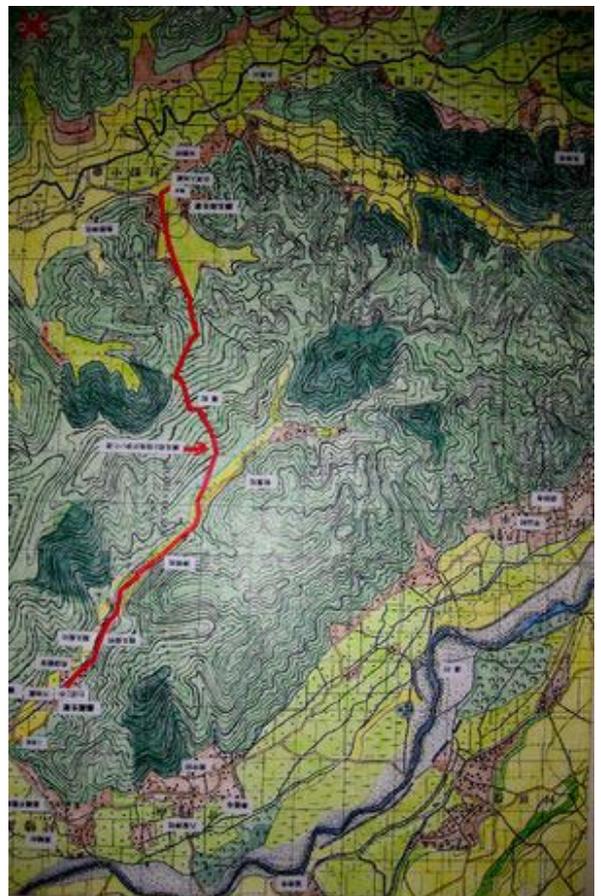
と言っではその日延ばしにしていた。二十七日になって、半四郎が勝五郎の父、源蔵のもとへやってきた。半四郎は源蔵の許しを得て、勝五郎を程久保へ連れて行くことになった。勝五郎は、久兵衛の墓参りができると大喜びで連れて行ってもらい、夕方には、思いを遂げて帰ってきた。

かくして、それからというもの、父の源蔵が暇になると、勝五郎は父とともに半四郎のところへ行くようになった。そして、『源蔵家』と『半四郎家』は、その後、互いに親戚として親しく付き合うようになったという。

☆ 藤蔵・勝五郎生まれ変わり物語の舞台～程久保村と中野村

(ジオラマ・地形図とも下方が高幡・浅川方面、上方が堰場・大栗川方面)

(郷土資料館提供)



*関係資料 「勝五郎再生記聞」平田篤胤（岩波文庫）・「愛される子どもたち―藤蔵と勝五郎、そして露姫」北村澄江（多摩の歩み 1 3 1 号）・「あの世へ行った話・死の話・生まれかわり」松谷みよ子（立風書房）・「ほどくぼ小僧・勝五郎生まれ変わり物語」（日野市立郷土資料館）

資料 2 「勝五郎 生まれ変わり物語」（要約英語版）

A change story born in Katsugorou

A mysterious story that a dead human being is reborn is handed down in Hodokubo of Hino.

Once upon a time (the Edo era) there was one child in "the Nakano Village" of Hachioji. He is six-year-old boy, called "Katsugorou". He had an older sister and an older brother.

One day Katsugorou was playing with his older sister and older brother. Then Katsugorou asked the brother.

"Whose child were you before you are born?"

"I do not know" The brother answered.

And he asked the the sister next.

"Whose child were you before you are born?"

"I do not know! There is no possibility that I exist before I am born. You are a funny child!" The sister said. The sister asked Katsugorou.

"Do you know before you are born?"

Then Katsugorou answered.

"I know it well". I was born in "a Hodokubo Village" of Hino before. My name was "Touzo" , then.

The sister has been disgusted.

"I say to a father and a mother!" The sister said.

"Katsugorou" said in a hurry.

"Please! Please never say to a father and a mother."

He has burst into tears. She felt sorry and said to Katsugorou.

"Then I will not tell. But I will talk about the story to a father and a mother when you are bad!"

However, the older sister has told the secret of "Katsugorou" to father and mother after a while. Because it was a very mysterious story, the parents were surprised very much. So the parents asked "Katsugorou" the story in detail.

Katsugorou did not want to talk about his secret (the memory of the previous existence). However, he told the following thing to his parents.

The name of the previous existence of "Katsugorou" was "Touzo" and he was born in "a Hodokubo Village" of Hino. "Touzou" died at the age of 6 years old, because of a disease I was dead, and the body disappeared, but the soul has left. After a while I was in the present mother in "Nakano Village" of Hachioji and was reborn as "Katsugorou".

All the content of the story that "Katsugorou" told matched the facts afterwards. In addition, "Katsugorou" talked about the things that only Thozo knew.

The secret of this "Katsugorou" became well known to the people of "Nakano Village" before long. He became called by the nickname "The Hodokubo Boy". And the name of "The Hodokubo Boy" became well known to Edo and Kyoto.

The mysterious story that a dead human being was reborn is even now handed down by a descendant of "Touzo" of "Hodokubo".

郷土教育推進研究委員

No.	役 職	所 属	職	氏 名
1	委員長	日野第一小学校	校 長	小 杉 博 司
2	副委員長	日野第四中学校	校 長	秋 山 讓 児
3	委 員	学識経験者	元校長（中野・仲町小）	會 田 満
4	委 員	学識経験者	元校長（日野第二小）	吉 野 美智子
5	委 員	日野第二小学校	教 諭	吉 原 涼 子
6	委 員	日野第四小学校	教 諭	小 坂 克 信
7	委 員	日野第六小学校	教 諭	滝 田 かおり
8	委 員	日野第七小学校	教 諭	山 形 慎 一
9	委 員	平山小学校	教 諭	鎌 田 博 志
10	委 員	日野第一中学校	教 諭	倉 田 和 俊
11	委 員	日野第四中学校	教 諭	清 水 敬 造
12	委 員	三沢中学校	教 諭	谷 靖 子
13	委 員	郷土資料館	学芸員	峰 岸 未 来
14	委 員	文化スポーツ課文化財係	係長・学芸員	金 野 啓 史
15	委 員	中央図書館	司 書	菅 野 尚 美
16	委 員	教育委員会 学校課	指導主事	小 林 邦 子
17	委 員	教育センター	所 員	丘 博 光

郷土教育推進研究協力者

小 澤 昭 道	氏	(中央図書館)
猪 俣 恵 子	氏	(中央図書館)
宮 川 栄 一	氏	(郷土資料館)
中 山 弘 樹	氏	(郷土資料館)
北 村 澄 江	氏	(郷土資料館)
鈴 木 淳 世	氏	(郷土資料館)
小 宮 豊	氏	(勝五郎生まれ変わり物語探求調査団・藤蔵子孫)
池 田 正 昭	氏	(文化スポーツ課)
斎 藤 努	氏	(日野市観光協会)
尾 形 雄貴仁	氏	(日野第四中学校)
河 野 和 昌	氏	(ICT活用研究委員会)
望 月 桂	氏	(教育相談室)
栗 原 梓	氏	(適応指導教室)

郷土教育推進研究報告書

「郷土日野」指導事例 第4集

発行日 平成21年3月31日

発行 日野市立教育センター
郷土教育推進研究委員会

印刷 システム印刷株式会社